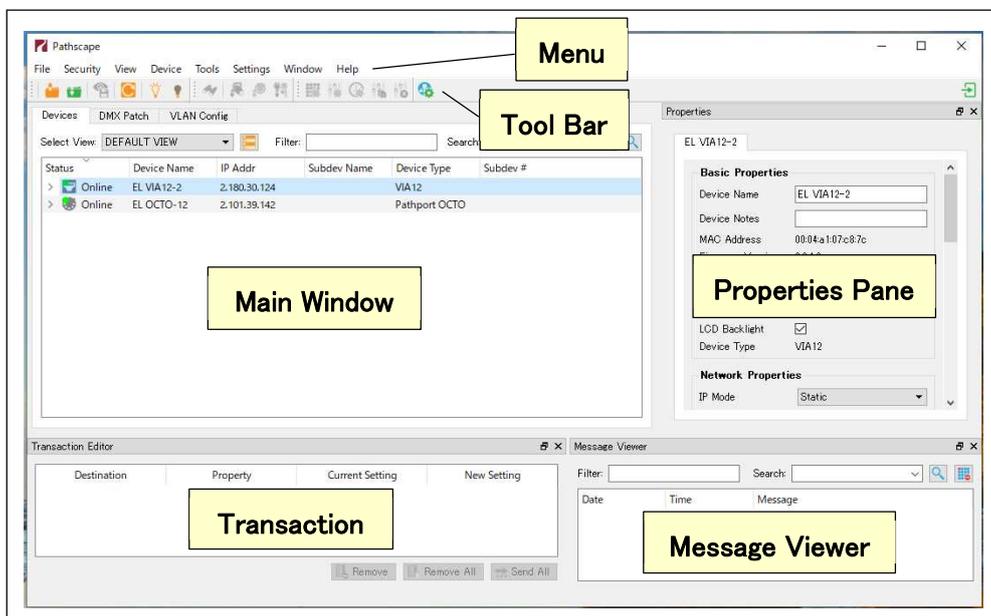


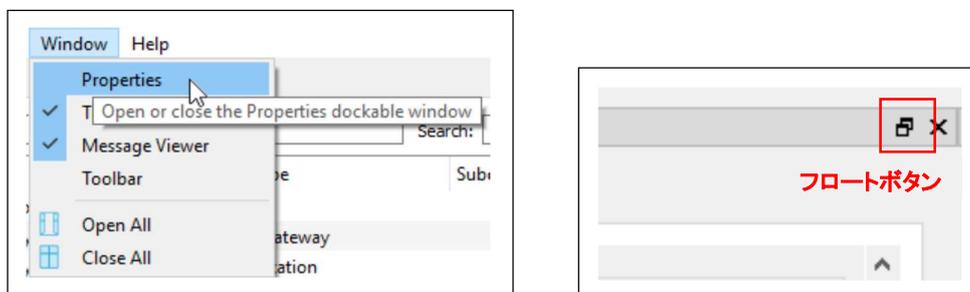
Pathscope3 Manual

■ 概要

Pathscope™は、Pathway デバイスの検索と構成を可能にするソフトウェアアプリケーションです。



- Main Window 以外は、ウインドウの再配置/ドッキング解除/サイズ変更/Close ができます。閉じたウインドウは、画面上部の Window メニューをクリックし、見つからない項目をクリックして復元します。



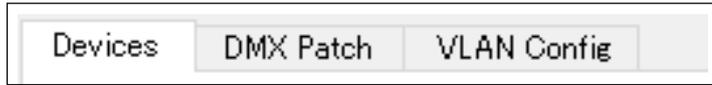
ドッキング可能なウインドウは互いの上にドロップし、積み重ねて、タブ付きビューを作成できます。フロートボタンを押すと、タブ付きビューからウインドウをドッキング解除できます。

- ツールバーはデフォルトでは非表示になっています。ツールバーを表示するには、Window メニューをクリックし、“Toolbar”をクリックしてアイコンツールバーを有効にします。



ツールバーは、メインウインドウのどの側にもドッキングできます。左側(水平の場合)または上部(垂直の場合)の点線のグラブバーにマウスを合わせ、クリックして目的の場所にドラッグします。メインウインドウの外に移動すると、フローティングツールバーになります。

- ・メインウィンドウには、Device / DMX Patch / VLAN Config の3つのタブがあります



Device タブ : 検出されたすべての Pathway デバイスの、ステータス/機器の名前/タイプ/ユーザーのメモなど、機器に関する情報が表示され設定を変更することもできます。

DMX Patch : グリッドタイプのパッチウィンドウでデバイスポートに DMX ユニバースをパッチできます。

VLAN Config : VIA スイッチのポート/VLAN/VLAN タイプなどに関する情報が表示され、設定の変更をすることもできます。

- ・アプリケーションを起動すると、検出された機器が[Device]タブに表示されます。デバイスアイコンのドットの色で機器の接続状況が表示されます。

Status	Device Name	Device Type
> Offline	Rack Uno	Pathport 1-Port...
> Offline	Rack 1011	Pathport 1-Port...
> Online	[blank](10.53.65.172)	Pathport OCTO
> Online	Desk VIA 12	VIA12
> Online	Entrance NSB 4B2S	NSB PoE Station

緑 : 正常に接続されている

黄 : ロードされたショーファイルに機器の情報があるが、まだオンラインになっていない

赤 : 最初は正常に接続されていたが、その後オフラインになっている

Pathscape が機器を検出しない場合、機器の再起動中、不接続、電源切断、または PC が別の VLAN へ接続されているなどが考えられます。

また、ネットワークアドレスの問題なども考えられます。

■ セキュリティ

2020年1月1日、カリフォルニア州でサイバーセキュリティ法が施行されました。

Pathway 製品はこれに準規させるため、下記のようになります。

- ・ 2020年1月1日以降に出荷された製品を使用する場合、Pathscape はネットワーク上のすべてのデバイスの構成を許可するために単一のパスワードを必要とし、Pathscape3 を使用してのみ構成できます。また、以前のパスワードなしのファームウェア(バージョン 4 以下)にダウングレードできません。
- ・ 2020年1月1日より前に出荷された製品は、Pathscape2 または Pathscape3 のいずれかを使用して、パスワードなしで引き続き使用できます。
- ・ フロントパネルから設定可能な製品は、独自の固有のパスワードを作成できます。(※ Ver.5 以降)
(単一のパスワードを入力する必要があるのは、ネットワーク構成製品の場合のみです)
- ・ パスワードを紛失した場合に備えて、リカバリキーを印刷または保存することを推奨します。
- ・ パスワードとリカバリキーを紛失した場合、ネットワーク上の各デバイスを手動で工場出荷時のデフォルトに戻す必要があります。
- ・ 工場出荷時のデフォルトのデバイスの前に、完全なネットワーク構成をパスワードなしで保存できます。保存した設定を適用するには、ネットワークに新しいパスワードを設定する必要があります。
- ・ sACN や ArtNet などの保護されていないプロトコルを受信するようにデバイスを構成するには、リスクを受け入れる必要があります。安全でないプロトコルについては、警告ボックスが出るようになります。

◇ セキュリティ・ドメインの紹介

ネットワークのセキュリティ管理プロセスを簡略化するために、Pathscape3 は”Security Domain”の概念を導入しています。

Device タブには、機器のドメイン名と現在の状態を示す南京錠アイコンを示す新しいビューがあります。

Status	Security Domain	Device Name	Device Type
▶ Online	Unsecured	[blank](192.168.2.77)	Pathport 1-Port (eDIN/UNO)
▶ Online	Studio	Truss 4-Port	Pathport QUATTRO
▶ Online	24WML	DemoCase	Vignette Gateway DMX
▶ Online	24WML	DemoVigCase	Vignette Architectural Gate...
▶ Online		My6824	Pathport 4-Port, eDIN

赤 - Unsecured Device (安全でない機器)

2020年1月1日以降に出荷された機器には、セキュリティを含むバージョン5ファームウェアが搭載されます。これらの機器は、タイプ、名前、ファームウェアバージョンのみを表示します。他のすべてのプロパティは、セキュリティドメインに追加するまで読み取ることができません。

アンバー - Secured Device not in the Current Domain (現在のドメインにない保護された機器)

セキュリティドメインに追加された機器は、黄色の南京錠で表示されます。ファームウェア V5 の機器では、すべてのプロパティを読み取り、ネットワーク設定でショーファイルを保存することもできますが、プロパティは読み取り専用です。(プロパティの設定するには、ドメインにログインする必要があります。)

Locally Secured と表示されることもあります。これは、フロントパネルのみを使用して構成できるようにフロントパネルを使用してパスワードを作成したことを意味します。

Pathscope で読み取り/書き込み権限を取得するには、フロントパネルから機器を **factory Default** に設定し、Pathscope を使用してローカルセキュリティドメインに追加する必要があります。

緑 - Secured Device in Current Domain (現在のドメイン内の保護された機器)

パスワードを使用してセキュリティドメインにログインすると、ドメイン内の全ての機器に緑色の南京錠が表示され、すべてのプロパティが読み取り/書き込み可能になります。

空白の Security Domain セル - 2020年1月1日より前に出荷されたバージョン4ファームウェアの機器

Security Domain セルが空の場合、この機器はバージョン4ファームウェアを使用しており、保護できません。Pathscope3 は、Pathscope2 とまったく同じようにプロパティを読み書きできます。ドメインで保護するには v5 ファームウェアにアップグレードする必要があります。

※ ファームウェアのアップデートは **Upgrading Device Firmware** セクションを参照

Pathscope3 は V4 の機器をセキュリティなしで構成できます。
V5 で提供されるセキュリティ機能が必要な場合に更新してください

◇ セキュリティドメインの作成

- ① Pathscope を起動すると、オンラインの機器がデバイスビューに表示されます。
Select View ドロップダウンから Security Domain ビューを選択します
V5 ファームウェアを実行している各デバイスの Security Domain 列に赤い”Unsecured”が表示されます。
- ② Security メニューから New Domain を選択します。



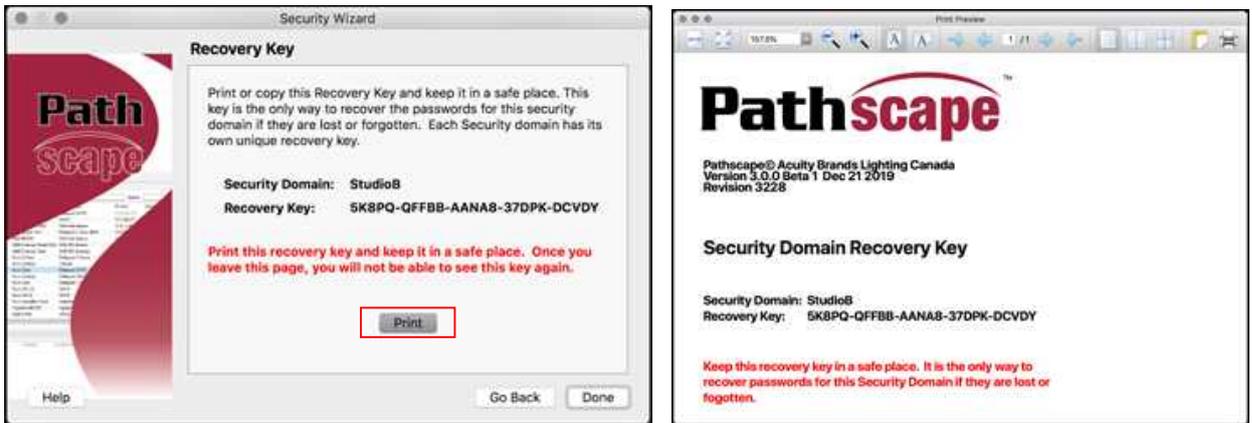
- ③ 新しいドメイン名と管理者およびユーザーのパスワードを入力します

- ・ 管理者はパスワードの変更や、Factory Default 状態の機器をドメインに追加できます。
- ・ ユーザーは機器のプロパティを変更し、ショーファイルの保存および復元ができます。すべてのユーザーに対して1つのユーザーアカウントパスワードがあります。

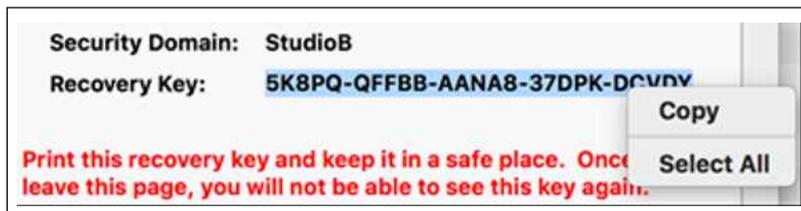
- ④ セキュリティで保護されていない機器をネットワークに追加するには、Unsecured チェックボックスをオンにしてから、Continue をクリックします。



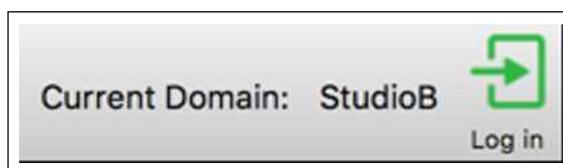
- ⑤ リカバリキーを印刷します。



Recovery Key をクリックして **Select All** をクリックし、キーをクリップボードにコピーして安全な場所に保管することもできます。



- ⑥ **Continue** を押して、機器をドメインに追加します。デバイスには黄色の南京錠があり、そのプロパティは読み取り専用になります。
- ⑦ **Toolbar** ボタンを押して、ユーザーとしてドメインにログインします。



セキュリティパラメータが確認されると、黄色の南京錠が緑色に変わり、それらの機器のプロパティが読み取り/書き込み可能になります。

◇ ドメインの管理

ドメインを管理するには、[Security]メニューをクリックし、[Administration]を選択します。



Add Devices

赤い南京錠が付いている新しい機器をドメインに追加するには、このオプションを選択します。

Factory Default

機器のセキュリティ設定をクリアしてドメインから削除する場合は、**Factory Default** を選択します。このダイアログボックスに表示されているセキュリティドメイン内の機器のみが使用できます。パスワードを設定していないデバイスの場合、ネットワークの設定機能を回復するには、個々の機器で Factory Defaults をかける必要があります。

Change Passwords

スタッフが変わった場合などは、ドメインのパスワードを変更することを推奨します。
(パスワードを変更するときは、すべての機器がオンラインである必要があります)

注：一部の機がをオフラインの状態、パスワード変更した場合、それらの機器はオンラインに戻ると、同じドメイン名になりますが、古いパスワードを使用します。
Factory Default をかけ、新しいパスワードを使用して新しいドメインに追加する必要があります。

メニューの **Security > Administrator** オプションを使用して、Factory Defaults をかけられます。ログインを求められると、同じ名前の 2 つのドメインがあります。2 番目のドメインを選択し、古いパスワードを使用して、リストされている機器に Factory Default をかけます。それらがオンラインに戻ったとき、Unsecured としてリストされるので、新しいパスワードを使用してそれらを新しいドメインに追加します。

◇ Local Security – Pathscope 無しでの Touring Edition、QUATTRO、OCTO の使用

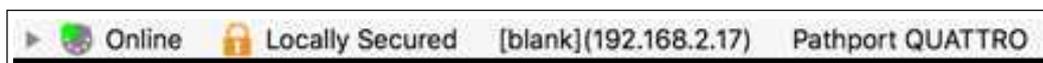
フロントパネルのユーザーインターフェイスを備えている、Touring Edition、OCTO、および QUATTRO は、Pathscope を必要とせずに、標準のユニバースを使用する単純な入出力ゲートウェイとして構成できます。PC を備えたコンピュータネットワークは使用されていませんが、サイバーセキュリティ法では、'悪意のある者' が PC を使用してリモートで構成を変更しないようにするために、一意のパスワードが必要です。

- ① フロントパネルの Utility メニューから、Enable Local Security にします。
- ② Protocol メニューで、Allow Unsecured にします。
- ③ 受信するプロトコルの Rx を有効にします
- ④ 各ポートで、Port Direction を Input または Output に設定し、標準のユニバース (Univ 1 など) にパッチを適用します。

※ 安全でないプロトコルに関する警告

暗号化または認証を使用しないオープンプロトコルを有効にしています。これらのプロトコルは、悪意のある者によって影響を受ける可能性があります。
物理的および技術的にネットワークへのアクセスを保護することを強くお勧めします。
続行するには、この声明を読み、これらのリスクを受け入れたことを認める必要があります。

Pathscope を開くと、このデバイスは Locally Secured ドメインの一部になります。



このセキュリティドメインにログインできません。この機器にカスタムユニバースを設定またはパッチする場合は、フロントパネルを使用して Factory Defaults をかけて、Pathscope を使用してセキュリティドメインに追加する必要があります。

◇ ドメインの復旧

管理者パスワードを紛失した場合、ドメインを回復し、その構成を保持して新しいパスワードを設定できます。

① メニューから、[Security] > [Recovery Domain]を選択します。

② 20桁の Recovery Key を入力して、
[Continue]を押します。



③ 新しい Admin Password を入力します。



④ メニューから Security > Administration
を選択し、新しいユーザーパスワードを
設定して、パスワードを変更します。



◇ 不明なドメインからの機器設定の保持

セキュリティドメインのパスワードがわからない場合でも、すべての構成を保持することができます。

ドメインにログインしない場合に表示される黄色の南京錠の機器は読み取り専用です。

ショーファイルを保存すると、すべての機器の設定が保存されます。その後、規定の方法を使用して機器に Factory Default を設定できます。

それらが赤い南京錠で Pathscope に再表示されたら、セキュリティドメインに追加してから、表示ファイルを開き、すべてのトランザクションを送信して、ネットワーク構成とパッチを復元します。

◇ 新しいデバイスでの古いバージョンのパスケーブの使用

2020 年 1 月 1 日以降に出荷された機器(バージョン 5 ファームウェア)で Pathscope1 または Pathscope2 を使用する場合、それらを構成することはできません。Pathscope3 を使用する必要があります。

注意として、デバイスラベルは以前のバージョンの Pathscope では「Use Latest Pathscope PC software to secure(最新の Pathscope PC ソフトウェアを使用して保護する)」と表示されます。プロパティは正しく表示されますが、それらを変更しようとすると失敗します。

■ Device View

Status	Device Name	Device Type	IP Addr	Subdev Name	Subdev #
Online	[blank](10.53.65.172)	Pathport OCTO	10.53.65.172		
Online	Desk VIA 12	VIA12	10.7.200.77		
Online	Entrance NSB 4B25	NSB PoE Station	10.61.9.20		
Online	Light Panel 1012	Pathport 2-Port...	10.0.78.211		
Online	NSB 4B3S3S	NSB PoE Station	10.61.9.8		
Online	NSB Gateway Slider Wall	NSB 485 Station			
Online	NSB Gateway Wall	NSB 485 Gateway	10.61.10.243		
Online	Rack 2-Port	Pathport C-Series	10.0.32.189		
Online	Rack 1012	Pathport 2-Port...	10.0.79.235		
Online	Rack 1014	Pathport 4-Port...	10.1.143.13		
Online	Rack Octo	Pathport OCTO	10.6.27.72		
Online	Rack Quattro	Pathport QUAT...	10.1.139.227		
Online	Rack VIA 10	VIA10	10.7.162.100		
Online	Rack VIA5	VIA5 with Fiber,...	10.30.132.148		
Online	Rack VIA12	VIA12	10.7.201.142		
Online	Rack Vignette Clock	Vignette Clock	10.61.9.44		

このタブには、ネットワーク上で検出された、または show ファイルで構成されたすべての機器が表示されます。デバイスアイコンまたはドロップダウン矢印をダブルクリックして、個々のサブデバイスを確認します。列は、水平方向にドラッグアンドドロップして並べ替えたり、列見出しをクリックして並べ替えたりできます。列見出しの矢印は、昇順または降順のソート順を示しています。

Status	Device Name	Device Type
Online	Kris's Choreo	Choreo
Online	NSB Gateway Wall	NSB 485 Gateway
Online	NSB Gateway Slider Wall	NSB 485 Station
Online	Entrance NSB 4B25	NSB PoE Station
Online	NSB 4B3S3S	NSB PoE Station

列をクリックし、水平方向にドラッグして再配置

Status	Device	Device Type
Online	[blank](10.53.65.172)	Pathport OCTO
Online	Desk Rack 2-Port	Pathport C-Series
Online	Desk Rack 1011	Pathport 1-Port...
Online	Desk Rack 1012	Pathport 2-Port...

列見出しをクリックして、ソート方向を変更

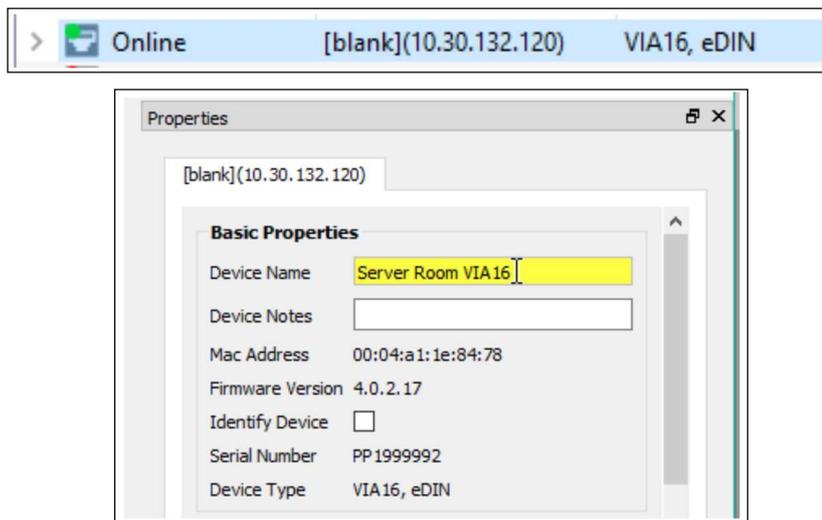
◇ デバイスのプロパティの変更

プロパティペインの使用

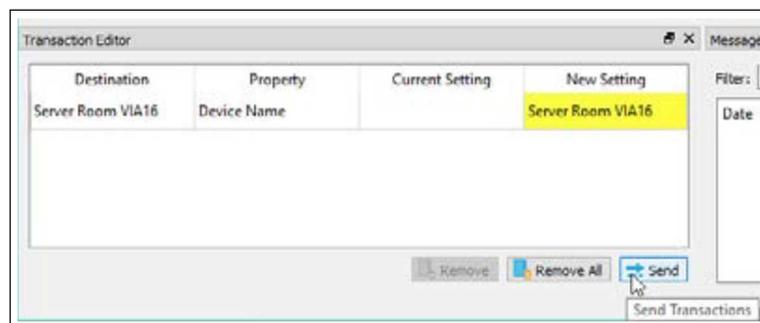
プロパティペインは、Pathscope の主要なレポートおよび設定ツールです。
表示されるオプションは、メインウィンドウでの選択によって異なります。

各デバイスには変更可能なプロパティのセットがあります。
プロパティは、プロパティのデータ型に応じて、さまざまなコントロールで変更されます。

新しいデバイスまたは工場出荷時の状態にリセットされたデバイスは、IP アドレスをデフォルトの名前/ラベルとして使用します。Stage Left Outputs、Server Room Switch などのわかりやすい名前、またはわかりやすい別の名前に変更する必要があります。
メインビューで機器をクリックし、Properties ペインの Device Name に適切な名前を入力します。



変更したプロパティが適用されていない場合、そのフィールドは上記のように黄色で表示されます。
変更を適用するには、Transaction Editor ペインの下部にある[Send All]ボタンをクリックして、変更をデバイスに送信します。



トランザクションが送信されてデバイスに保存されると、トランザクションは Transaction Editor のリストから消去され、フィールドは黄色から白に変わり、変更が適用されたことを示します。

デバイスビューを使用してデバイスプロパティを直接編集

デバイスのプロパティは、デバイスウィンドウで直接編集できます。プロパティを編集するには、Device ウィンドウでプロパティをダブルクリックして新しい値を入力し、[Send All]ボタンをクリックして変更を適用します。編集可能なプロパティは、デバイスウィンドウで直接編集できます。

The screenshot shows a device list at the top and a detailed view of 'Rack 1014' below it. The list includes:

Status	Device Name	Subdev Name	Device Type	IP
Online	Rack 1014	Pathport 4-Port, eDIN	Pathport 4-Port, eDIN	10.1.143.13
Online	Rack Octo	Pathport OCTO	Pathport OCTO	10.6.27.72
Online	Rack Quattro	Pathport QUATTRO	Pathport QUATTRO	10.1.139.227
Online	Rack Uno	Pathport 1-Port (eDIN/UNO)	Pathport 1-Port (eDIN/UNO)	10.4.196.62

The detailed view for 'Rack 1014' shows the following sub-devices:

Status	Device Name	Subdev Name	Device Type
Online	Rack 1014	Pathport 4-Port, eDIN	Pathport 4-Port, eDIN
Online	Stage Desk	Stage Desk	Stage Desk
Offline	FOH Console	FOH Console	FOH Console
Offline	A Out to Rig	A Out to Rig	A Out to Rig
Offline	B Out to Rig	B Out to Rig	B Out to Rig

(※ 編集できるのは、テキストが黒の場合のみです。グレー表示の物は編集できません。)

◇ サブデバイスの表示

デバイスアイコンまたはドロップダウン矢印をダブルクリックして、個々のサブデバイスまたはポートとそれらのステータス(該当する場合)を表示します。

デバイス名をクリックすると、プロパティペインに基本デバイスのプロパティも表示され、編集できます。

スイッチやゲートウェイなどの一部のデバイスには、ポートと呼ばれるサブデバイスがあります。

サブデバイスにも名前がある場合があります。

This screenshot shows the sub-devices for a Pathport device (Rack 1014):

Subdev Name	Device Type
Stage Desk	A
FOH Console	B
A Out to Rig	C
B Out to Rig	D

Pathport デバイス(DMX ポート)の例

This screenshot shows the sub-devices for a VIA device (Rack VIA 10):

Subdev Name	Device Type
Uno	1
2-Port	2
Quattro	3
TE	4
Entrance NSB	5
Port 6	6

VIA デバイス(Ethernet ポート)の例

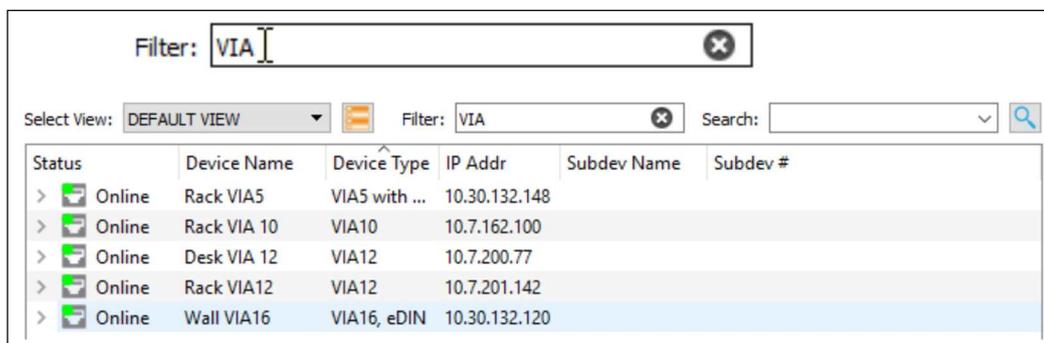
◇ 機器のフィルタリングと検索

Device ウィンドウの上部には、“Filter:”と“Search:”という2つのフィールドがあります。

Filtering

表示されている機器をフィルタリングするには、“Filter:”ボックスにテキストを入力します。Pathscope は、入力されたテキストに一致するデバイスのみを表示します。

たとえば、VIA スイッチのみを表示するには、“Filter:”フィールドに“VIA”と入力します。



“VIA”というテキストを含む機器のみがウィンドウに表示されます。

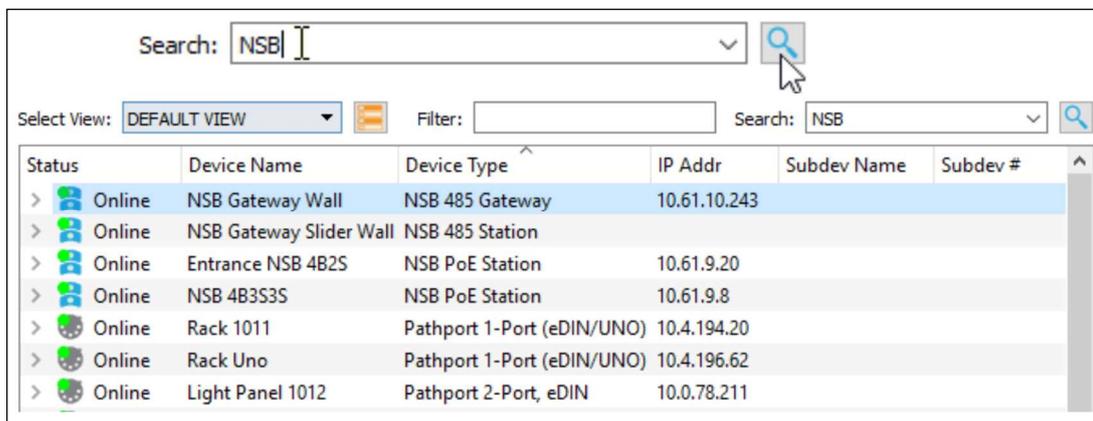
名前以外にも、以下に基づいてフィルタリングできます。

- ・ ファームウェアバージョン
- ・ IP アドレス
- ・ デバイスタイプ (VIA、Pathport など)
- ・ PoE
- ・ リンクステータス
- ・ サブデバイス番号または名前
- ・ メモ (ユーザー定義)
- ・ または、デバイスビューの列に含まれるその他のプロパティまたは値。

フィルターをクリアするには、テキストフィールド内の[X]をクリックします。

Searching

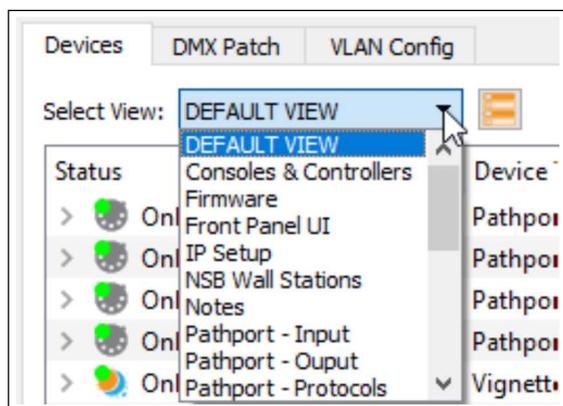
Device ビューに表示されている機器を検索するには、“Search:”ボックスにテキストを入力します。
[Q]ボタンをクリックすると、入力されたテキストに一致する最初のデバイスを強調表示します。
もう一度[Q]ボタンを押して”Find Next”すると、一致する次のデバイスを強調表示します。



◇ カスタムビューの選択

デバイスビューでは、機器が他の機器情報と共にいくつかの列に表示されます。これらの列には、機器の名前、タイプ、IP アドレスなどが表示されます。Pathscope には表示できる数十のプロパティ列があります。

Pathscope には、[Select View:]ドロップダウンの下にカスタムビューメニューがあり、異なる列ビューを簡単に切り替えることができます。



リストの最初の項目は DEFAULT VIEW です。これは、Pathscope を初めて起動したときに表示されます。
Status、Device Name、Device Type、IP Address、Subdevice Name、Subdevice #の列で構成されています。

プレインストール済みビューの使用

デフォルトのビューアイテムの下には、特定の基準を確認するのに便利な”Canned(既定の)”プリセットビューがあります。

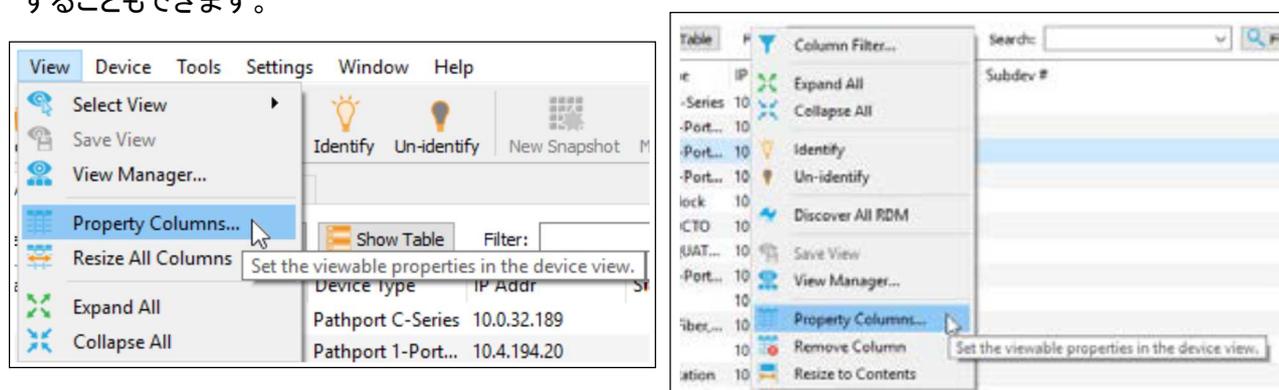
例えば、”NSB Wall Stations”という名前のビューは、それらの NSB デバイスのみを表示し、プロパティ列のレイアウトを **Status**、**Device Parent**、**Subdevice Name**、**Subdevice #**、**Family**(”NSB サブデバイス”でフィルター)、状態(ボタンが押された、押されていない、またはスライダーレベル 0~255)。
また、Device ビューのレイアウトをツリービューからテーブルビューに変更します。これにより、ネットワーク上のすべての NSB デバイスのステータスを簡単に確認できます。

デバイスやプロパティを簡単に表示するためのビュープリセットは他にもいくつかあります。Select View ドロップダウンメニューをクリックし、表示されているプリセットのいずれかをクリックして確認します。

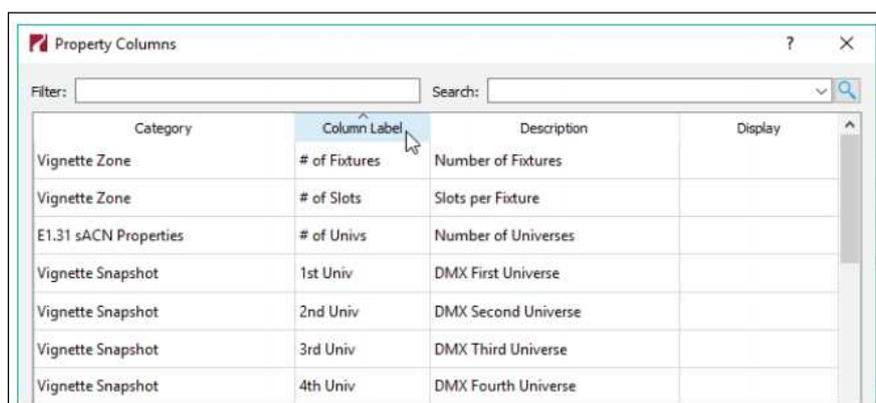
ユーザーが定義したビュー

特定のニーズに合わせて独自のカスタムビューを作成できます。[View]メニューをクリックし、[Property Columns]を選択します。

メインのデバイスビューウィンドウの任意の場所を右クリックして、そこから[Property Columns]を選択することもできます。



これにより、[Property Columns]ウィンドウが開きます。



Property Columns ウィンドウには、**Category**、**Column Label**、**Description**(説明)、**Display**(表示)の 4 つの列があります。

デフォルトでは、列はカテゴリの昇順で並べ替えられています。並べ替え方法を変更するには、矢印が目的の方向になるまで目的の列ヘッダーをクリックします(昇順の場合は上、降順の場合は下)。

Category 列は、さまざまなプロパティを一般的なカテゴリに分けます。
(Basic Properties、Advanced Properties、Device、DMX ポートなど)

Column Label 列には、表示される個々のプロパティの名前またはラベルがリストされます。
(デバイス名、デバイスタイプ、シリアル番号、ポート方向など)

Device ウィンドウやメッセージビューアーと同様に、Property Columns ウィンドウをフィルター/検索して、探している Column Property をすばやく見つけることもできます。

目的の列プロパティを表示するには、**Display** 列をクリックし、プロパティにチェックマーク[✓]を付けます。
(チェックマークを外すにはもう一度クリックします)

[✓ OK]ボタンをクリックすると変更を確定します。[X Cancel]をクリックすると変更を破棄します。

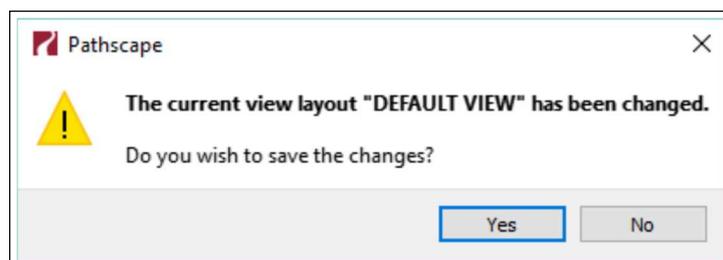
新しい列のプロパティが表示されたら、**Save View** [📄]機能を使用して、後で使用できるようにレイアウトを保存します。

既存のビューの変更

ビューが何らかの変更をすると、選択したビューは、名前の前に"*"(アスタリスク)が表示されます。これは、変更された未保存のビューということを示します。



変更が完了し、新しいビューが気に入った場合は、[Save View 📄]機能で保存します。
変更したビューを保存せずに別のビューを選択しようとする、確認ダイアログが表示されます。

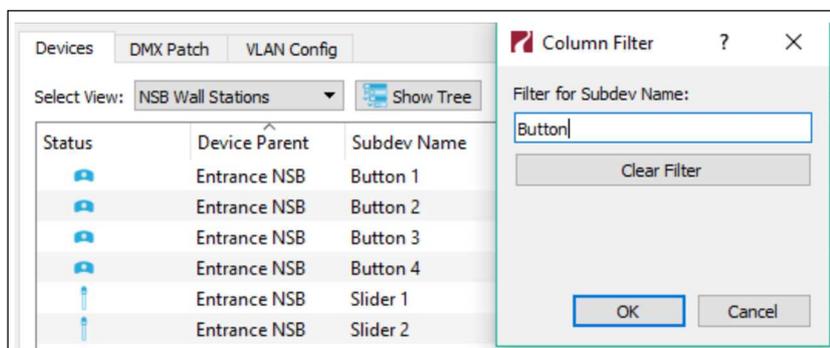


[No]をクリックすると、ビューへの変更が破棄されます。

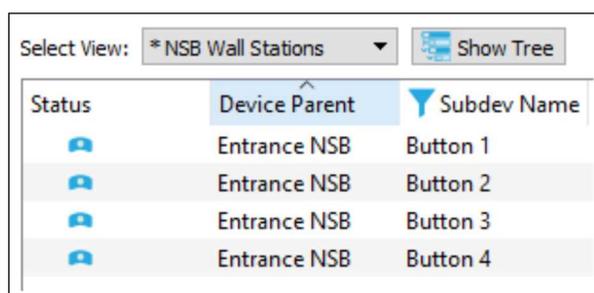
[Yes]をクリックすると、**Save View** ダイアログが開き、新しいビューに名前を付けることができます。

列のフィルタリング

カスタムビューのフォーカスを増やすために、個々のプロパティ列をフィルタリングすることもできます。目的の列が表示されたら、適切な列を右クリックして[▽ Column Filter]をクリックし、フィールドにテキストを入力して、選択した列をフィルターします。



フィルターするテキストを入力したら、[OK]ボタンをクリックして適用します。フィルターされた列の見出しの横に▽アイコンが表示され、一致するプロパティのみが列に表示されます。



上記の例では、“NSB Wall Stations”ビューにすべての NSB ステーションが表示されていましたが、Button ステーションのみを表示したい場合は、“Button”という用語で **Subdev Name** 列をフィルタリングして、名前に“Button”を持つサブデバイスを表示しています。

列フィルターのクリア

列フィルターをクリアするには、列を右クリックして[Clear Filter]をクリックします。すべての列フィルターをクリアするには、デバイスビューウィンドウの任意の場所を右クリックし、[Clear All Filters]をクリックします。

◇ スイッチリンクの速度とステータス

スイッチポートの場合、リンク速度とステータスもポートアイコンの色で示されます。

Icon Color	Status
Grey 	Link Down (no downstream device connected)
Blue 	1 Gigabit
Green 	100 Megabit, full or half duplex
Orange 	10 Megabit, full or half duplex

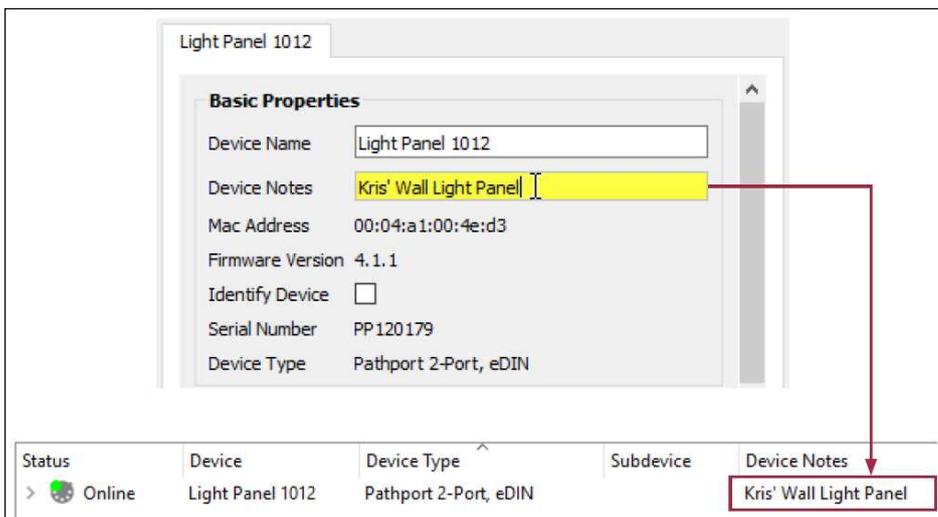
Icon Color	Status	Port Name
	Link Up 100Mbit Full Duplex	Quattro
	Link Up 100Mbit Full Duplex	Entrance NSB
	Link Up 100Mbit Full Duplex	Port 10
	Link Up 10Mbit Half Duplex	Uno
	Link Up 10Mbit Half Duplex	2-Port
	Link Up 1Gbit Full Duplex	VIA 12

注： Link Status 列を表示するには、Property Columns ウィンドウを使用して Link Status 列を表示する必要があります。

注： アイコンは銅線の RJ45 ポートを、 アイコンは光ファイバーポートを表します。ただし、上記で説明した色分けは、どちらのタイプのポートでも同じです。

◇ DEVICE NOTES

Notes 列には、ユーザーが Properties ペインに記録したデバイスまたはサブデバイスの詳細が表示されます。



Light Panel 1012

Basic Properties

Device Name: Light Panel 1012

Device Notes: Kris' Wall Light Panel

Mac Address: 00:04:a1:00:4e:d3

Firmware Version: 4.1.1

Identify Device:

Serial Number: PP120179

Device Type: Pathport 2-Port, eDIN

Status	Device	Device Type	Subdevice	Device Notes
Online	Light Panel 1012	Pathport 2-Port, eDIN		Kris' Wall Light Panel

DMX Patch

Device	Subdevice	#	Assigned	Port Direction	Unpatched	Univ 1	Univ 2	Univ 3	Univ 4	Univ 5	Univ 6	Univ 7
[blank](10.30.133.126)	Port A	A	Univ 1	Output		✓						
[blank](10.30.133.126)	Port B	B	Univ 2	Output			✓					
[blank](10.30.133.126)	Port C	C	Univ 3	Output				✓				
[blank](10.30.133.126)	Port D	D	Univ 4	Output					✓			
[blank](10.30.133.126)	Port E	E	Univ 5	Output						✓		
[blank](10.30.133.126)	Port F	F	Univ 6	Output							✓	
[blank](10.30.133.126)	Port G	G	Univ 7	Output								✓
[blank](10.30.133.126)	Port H	H	Univ 8	Output								
Desk Rack 2-Port	Port A	A	Univ 3	Input				✓				
Desk Rack 2-Port	Port B	B	Univ 4	Input					✓			

DMX Patch ウィンドウは、パッチが作成されるグリッド表示です。

◇ 機器とポート

パスポート製品は最初の **Device** 列に表示され、**Subdevice** (ポート) 名は次の列に表示されます。ポート名を編集するには、ポートをクリックして強調表示し、Properties ペインの Subdevice フィールドを編集します。

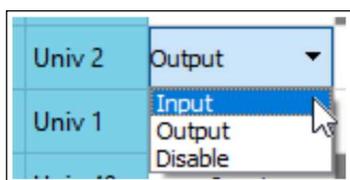
The Properties window for 'Desk Rack 1014-Port C' shows the following details:

- Basic Properties:**
 - Subdevice: A Out to Rig
 - Subdevice Notes: (empty)
- DMX Port:**
 - DMX512: Enabled
 - Port Direction: Output

サブデバイス名が編集され、ポート番号が欠落している場合に備えて、サブデバイス番号 (A、B、C など) が次の列に表示されます。これらは、デバイスの物理ポートラベルに対応しています。

ポート番号の横にある Assigned 列には、現在パッチが適用されている DMX ユニバースが確認できます。Assigned 列の横には Port Direction 列があり、選択したポートの入出力を設定できます。

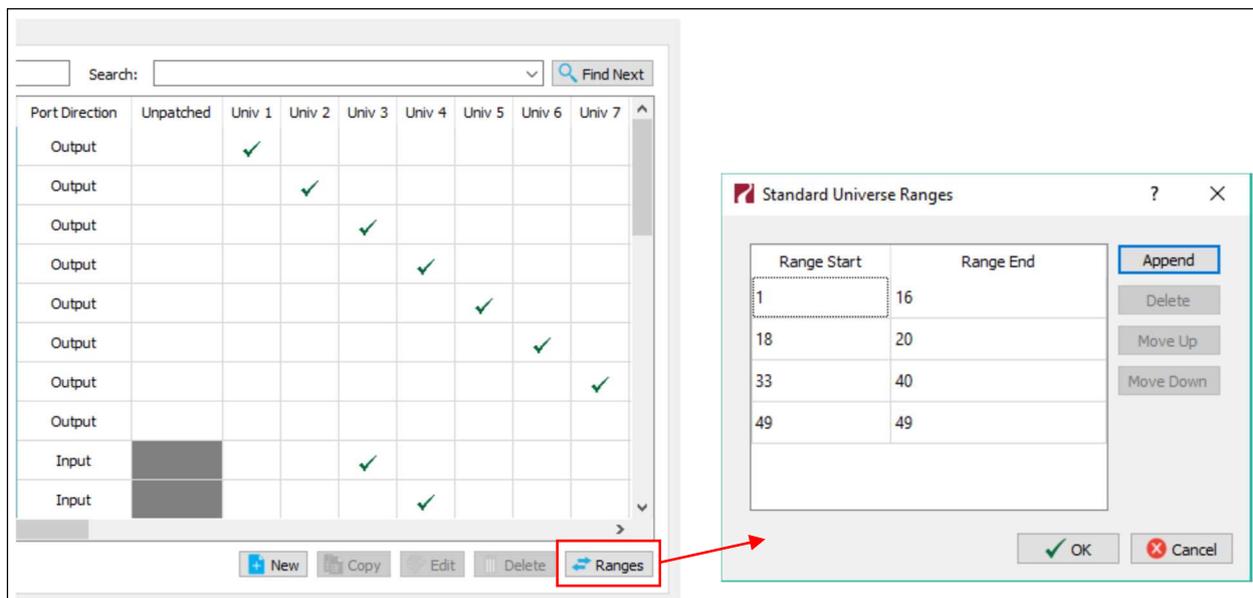
選択肢は、Input、Output、Disabled です。変更するには、ダブルクリックして、ドロップダウンメニューから新しい値を選択します。



次の列は [Unpatched] です。これにより、ポートのパッチを解除できますが、まだアクティブな状態です。

◇ ユニバース列と範囲

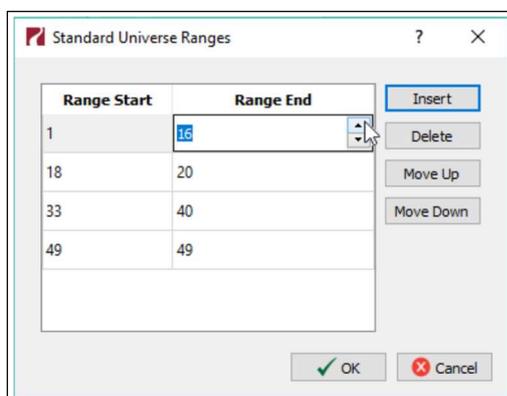
Unpatched 列の右側には、個別のユニバース列があります。これらは、ウィンドウの右下隅にある [Ranges] ボタンを使用して構成できます。



表示されるユニバース範囲はここで構成されます。これにより、必要のあるユニバースのみを簡単に表示できます。上記の例でわかるように、不連続な範囲のユニバースが可能です。

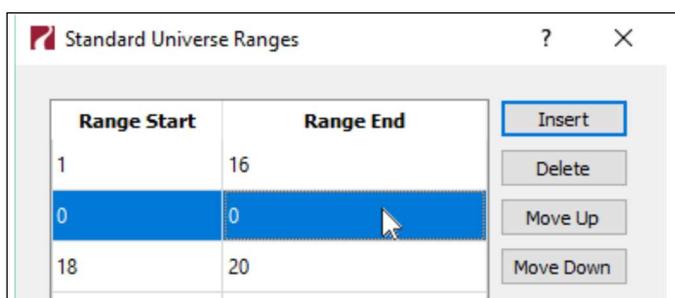
既存のエントリを編集するには、変更する番号をダブルクリックします。

この時点で、フィールドに新しい番号を入力するか、上下の矢印ボタンを使用できます。



新しい範囲のユニバースを挿入するには、[Insert] ボタンをクリックします。

新しい範囲は、"Range Start" と "Range End" プロパティの両方のデフォルト値が 0 で表示されます。

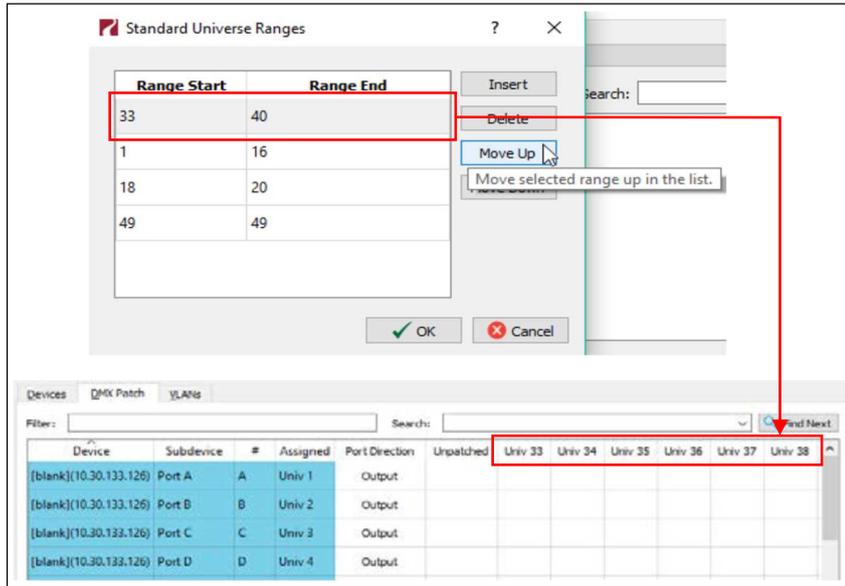


新しく挿入された範囲を編集します。

DMX パッチグリッドに表示されるユニバース範囲の順序は、Universe Range]ウィンドウに表示される順序になります。

たとえば、Universe Range 1~16 の前に、Universe Range 33~40 を表示することができます。

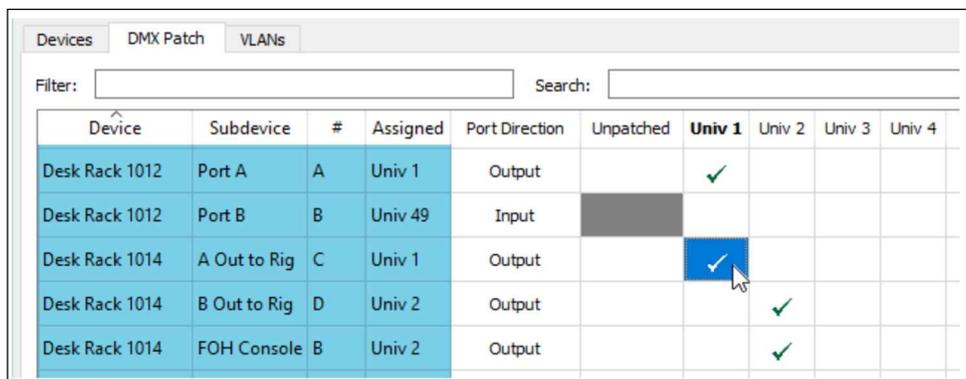
これを行うには、移動したい Range をクリックし、「Move Up」または「Move Down」ボタンをクリックして、希望の位置に移動します。



Universe Ranges Configuration ウィンドウを使用して、アクティブなユニバースのカスタムビューを必要な順序で簡単に設定できます。

◇ DMX ポートのパッチ

ポートにユニバースにパッチするには、ウィンドウを水平方向にスクロールし(必要な場合)、ポートをパッチするユニバース列を見つけます。目的の列とポートと交差するセルをダブルクリックして、ポートをそのユニバースにパッチします。

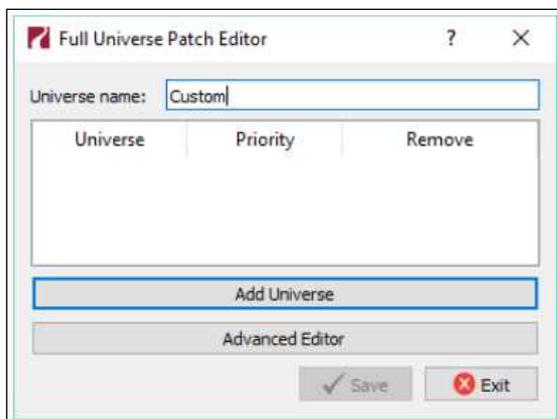


選択すると、トランザクションが Transaction Editor に表示されます。

[⇒ Send]ボタンをクリックして変更を確認します

◇ カスタムパッチ

カスタムパッチを作成するには、DMX Patch ウィンドウの下部にある [New] ボタンをクリックします。これにより、Full Universe Patch Editor ウィンドウが表示されます。



ウィンドウの上部で、**Universe Name:** にカスタムパッチの名前を入力します。(デフォルトは”Custom”)

ウィンドウの下部には、[Add Universe]と[Advanced Editor]の2つのボタンがあります。

複数のユニバースのマージなど、単純なカスタムパッチの場合は、[Add Universe]ボタンをクリックします。これにより、**Universe**、**Priority**、**Remove** の列を持つユニバース行が1つ追加されます。

Universe name: Custom		
Universe	Priority	Remove
Univ 1	High	×
Univ 1	High	×

Universe 列にはソースユニバース、**Priority** 列には優先度(デフォルトは High)、**Remove** 列では[×]をクリックして不要なエントリを削除できます。

目的のユニバースを選択するには、”Univ 1”セルをダブルクリックします。次に、上矢印と下矢印を使用して、目的のユニバースを選択します。ユニバース番号を直接入力することもできます。

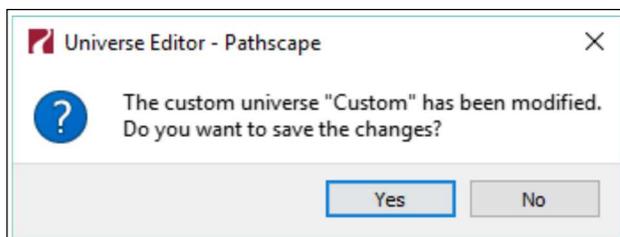


ソースの優先度レベルを選択するには、デフォルトで”High”とマークされている Priority セルをダブルクリックします。次に、ドロップダウンメニューで優先度レベルを選択できます。

Universe	Priority	Remove
Univ 1	High	×
Univ 2	High	×

Priority dropdown menu options: High, 2, 3, 4, 5, 6, 7, Low

問題がなければ、[Save]ボタンをクリックします。変更を破棄するには、[Exit]ボタンをクリックします。その後、変更を保存または破棄する別の機会があります。



[✓ Save]ボタンをクリックすると、新しいカスタムパッチが Unpatched 列の直後、最初に表示されたユニバース列の横にある DMX Patch ウィンドウに表示されます。

パッチを完了するには、新しいカスタムパッチ列と交差する目的のデバイスポートをダブルクリックし、[⇒ Send]ボタンをクリックして変更をネットワークに送信します。

Device	Subdevice	Subdev #	Assigned	Port Direction	Unpatched	Custom
Light Panel 1012	Port B	2	Custom	Output		<input checked="" type="checkbox"/>

◇ カスタムパッチのコピー、編集、削除

カスタムパッチを作成したら、それを変更や、コピーの作成、そのコピーの変更、不要なパッチの削除を行うことができます。

編集 : カスタムパッチ列の任意の場所をクリックし、[Edit Custom]ボタンをクリックします。
(※ パッチに付けられた名前はすべてボタンに表示されます。)

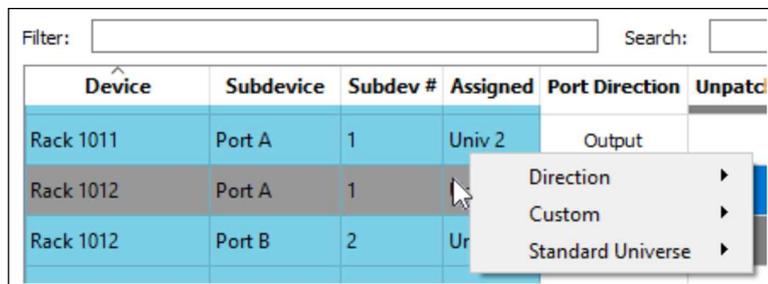
コピー : カスタムパッチ列の任意の場所をクリックし、[Copy Custom]ボタンをクリックします。
元の横の新しいパッチ列にパッチのコピーが作成され、名前に(X)が追加されます
(X は、作成済みのコピーの数に応じて、1 以上の整数です)。
必要に応じてコピーを編集できます。

削除 : パッチ列の任意の場所をクリックし、[Delete Custom]ボタンをクリックします。

◇ 右クリックメニュー - 新しいユニバースのクイックパッチ

DMX パッチウィンドウには、便利な右クリックメニューがあり、知っておくと便利です。
メニューを表示するには、デバイス/ポートのいずれかの青色/薄い領域を右クリックします。

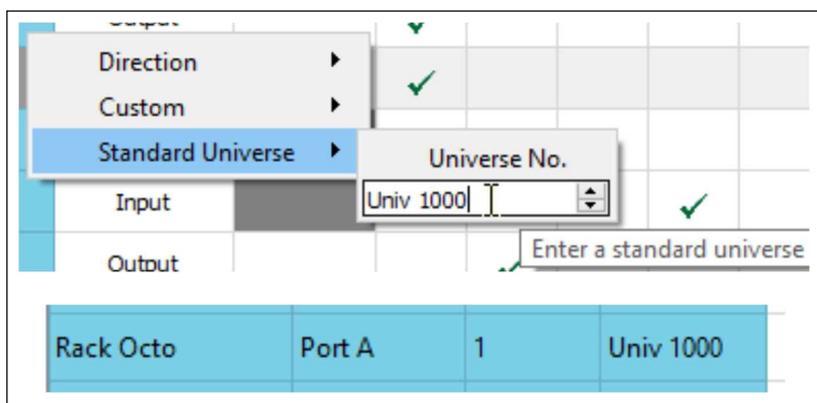
Device	Subdevice	Subdev #	Assigned	Port Direction	Unpatch
Rack 1011	Port A	1	Univ 2	Output	
Rack 1012	Port A	1			
Rack 1012	Port B	2	Ur		



Port Direction : 指定されたポートの[Port Direction]セルをダブルクリックするのと同じオプション。
オプションは、Disabled、Input、Output です。

Custom : カスタムパッチのリストが表示され、それに応じてそのポートにパッチを適用できます。
多くのカスタムパッチがある場合、水平にスクロールしたくない場合に役立ちます。

Standard Universe : 小さなユニバース選択ウィンドウが開き、新しいユニバースを指定して、その
ポートにすぐにパッチを適用できます。



複数のポートの右クリックメニュー

上記の右クリックメニューを使用して、複数のポートを一度に変更することもできます。
たとえば、ゲートウェイの 8 つのポートすべてを出力に変更したり、複数のポートをカスタムまたは新しいユニバースにパッチしたりできます。

変更する最初のポートをクリックし、Shift キーを押しながらクリックして、隣接するポートの範囲を選択します（選択したポートは灰色で表示されます）。

Device	Subdevice	Subdev #	Assigned	Port Direction	Unpatched	U
Rack 1014	B Out to Rig	4	Univ 2	Output		
Rack Octo	Port A	1	Univ 33	Input		
Rack Octo	Port B	2	Univ 2	Output		
Rack Octo	Port C	3	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port D	4	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port E	5	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port F	6	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port G	7	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port H	8	Univ 1	Output		

または、Ctrl キーを押しながらクリックして、隣接していない個々のポートを選択します。

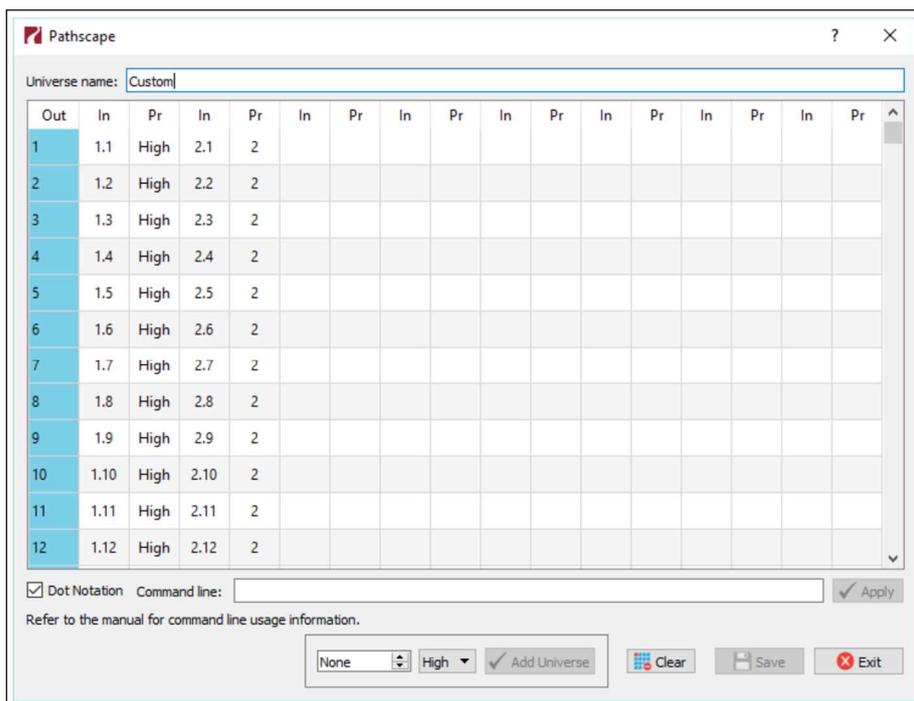
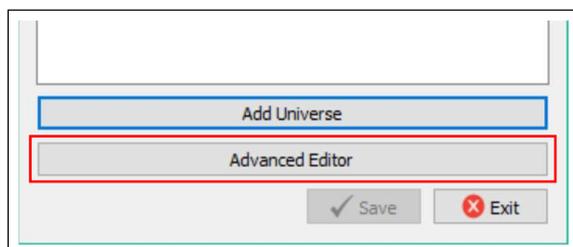
Device	Subdevice	Subdev #	Assigned	Port Direction	Unpatched	U
Rack 1014	B Out to Rig	4	Univ 2	Output		
Rack Octo	Port A	1	Univ 33	Input		
Rack Octo	Port B	2	Univ 2	Output		
Rack Octo	Port C	3	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port D	4	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port E	5	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port F	6	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port G	7	Univ 1	Output		
Rack Octo	Port H	8	Univ 1	Output		

どちらの場合も、変更を適用する目的のポートを選択し、前述と同じプロセスに従います。

◇ Advanced Patch Editor

より高度なカスタムパッチ編集を行うには、Advanced Editor を使用します。

Patch Editor ウィンドウの下部にある Advanced Editor ボタンをクリックします。



Advanced Editor を使用すると、チャンネルごとに優先度を設定したり、隣接しない範囲または狭い範囲のチャンネルなどの特定の範囲のチャンネルを構成したりできます。

Advanced Editor ウィンドウにはいくつかの列があり、Out と、In、Pr が順に繰り返されます。

Out : パッチの出力を示します。各チャンネルに 1 から 512 までの行があります

In : 入力ユニバースとチャンネルを指定します。(Pr 列と一緒に機能します)

Pr : そのチャンネルの優先度レベルを設定します。(同じ行の出力チャンネルにパッチされます)

チャンネル値を入力する方法はいくつかあります。

入力チャンネルと優先順位

手動での値の入力

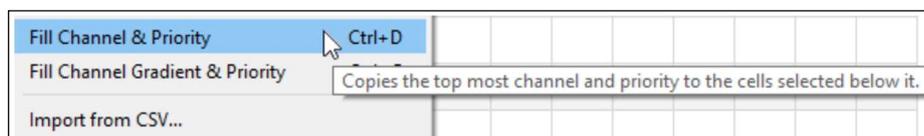
構成するチャンネルが数個しかない場合は、セルをダブルクリックして入力することにより、手動で入力できます。構文は、"X.Y"です。ここで、Xはユニバース番号、Yはチャンネル番号です。

チャンネルを表示する方法を変更するために、ウィンドウの左下隅に[Dot Notation]チェックボックスがあります。デフォルトではチェックされており、チャンネルを"X.Y"形式で表示します。
("ユニバース 1 チャンネル 1"を入力するには、セルをダブルクリックして[1.1]と入力)

絶対値のチャンネル番号(ユニバース 1 の場合は 1~512、ユニバース 2 の場合は 513~1024 など)を表示する場合は、このボックスをオフにします。

フィルチャンネル機能の使用

右クリックメニューの下には、"Fill Channel & Priority"と"Fill Channel Gradient & Priority"の2つの"Fill Channel"機能があります。

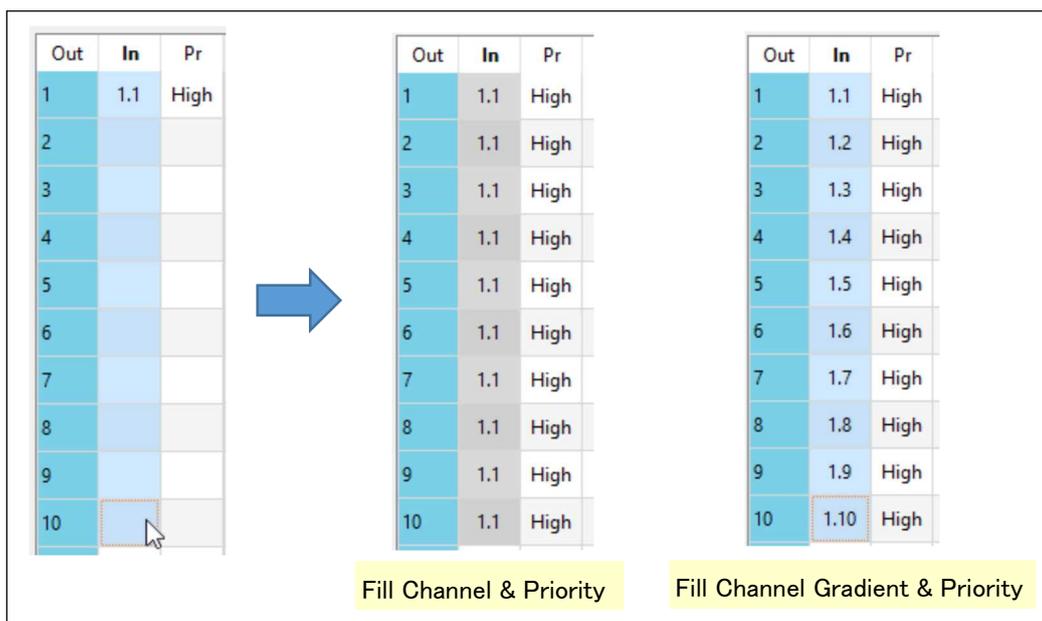


これらは両方とも、手動で入力することなく複数のチャンネルを埋めるのに役立ちます。これらの両方に、少なくとも1つの既存の値が必要です。たとえば、最初のセルに"1.1"と入力します。

同じチャンネルパッチを出力チャンネルの範囲に拡張するには、最初のセルを選択し、Shift キーを押しながらかlickして、セルの範囲を下に選択します。この例では、行 1~10 が選択されています。

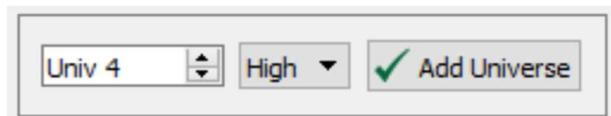
Fill Channel & Priority : 最初のセルから値がコピーされ、選択したすべてのセルが同じ値になります。

Fill Channel Gradient & Priority : 最初のセルから値を各チャンネル、1 ずつ増やした値になります。



Add Universe 機能の使用

ウィンドウの下部にある[Add Universe]ボックスを使用してチャンネル範囲を入力することもできます。



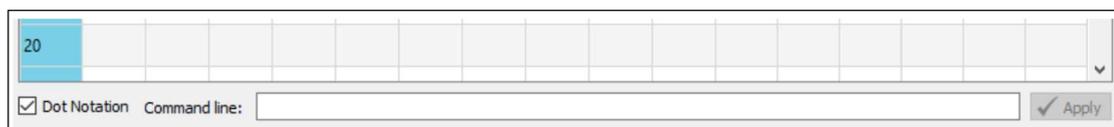
これは、基本的に Full Universe Patch Editor ウィンドウと同じように機能します。上/下矢印を使用してユニバースを選択するか、テキストフィールドに直接入力して優先度レベルを選択し、[Add Universe]ボタンをクリックします。

これにより、最初に利用可能な In および Pr 列に、選択したチャンネルと優先度の情報が入力されます。

コマンドラインの使用

ウィンドウの下部、[Add Universe]セクションの上にコマンドラインがあります。

これは、単一のコマンドでパッチ全体を作成するために使用できます。



コマンドラインの構文は次のとおりです。

Output Range AT Input Range [(At Equal Priority/At Next Lowest Priority) Additional Range]
出力範囲 AT 入力範囲 [(同じ優先度/次に低い優先度) 追加の範囲]

これは少しわかりにくいかもしれませんが、分解してみましょう。

Output Range(出力範囲) : 入力チャンネルを割り当てる出力チャンネルの範囲
この例では全ユニバースを使用(1-512)

Input Range(入力範囲) : 出力チャンネルにパッチを適用する入力チャンネルの範囲です
(「X.Y」形式で、X はユニバース番号、Y はチャンネル番号です)
この例ではユニバース 1 を使用し、範囲は 1.1~1.512 になります

AT : 演算子文字である「*」(アスタリスク)

角括弧内の要素はオプションであるため、省略します。コマンドは次のようになります。

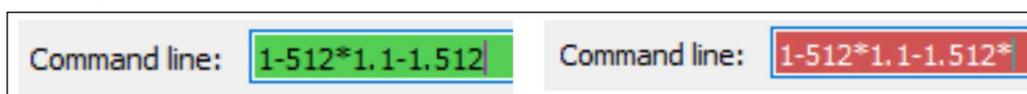
1-512 * 1.1-1.512

Enter キーを押すか、[✓ Apply]ボタンをクリックしてコマンドを送信します。次のようになります。

Out	In	Pr	In	Pr	In	Pr
1	1.1	High				
2	1.2	High				
3	1.3	High				
4	1.4	High				
5	1.5	High				
6	1.6	High				
7	1.7	High				
8	1.8	High				
9	1.9	High				
10	1.10	High				
501	1.501	High				
502	1.502	High				
503	1.503	High				
504	1.504	High				
505	1.505	High				
506	1.506	High				
507	1.507	High				
508	1.508	High				
509	1.509	High				
510	1.510	High				
511	1.511	High				
512	1.512	High				

コマンドは、In 列の入力チャンネルとして 1.1~1.512 を入力し、High の値を Pr 列に入力する必要があります。

※ コマンド構文が有効な場合、[Command Line]フィールドは緑色で強調表示され、無効な場合は赤色で強調表示されます。



パッチウィンドウ全体をクリアするには、右下隅の[Clear]ボタンをクリックします。
 ウィンドウをクリアして、別のコマンドを試すことができるようにします。

同じコマンドでさらに範囲を追加するには、“+”(プラス記号)か“/”(スラッシュ)文字を使用します。

+ : 前と同じ優先度で次の範囲のチャンネルを追加

/ : 次に低い優先度で次の範囲を追加

コマンドは次のようになります。

1-512*1.1-1.512+2.1-2.512/3.1-3.512

パッチウィンドウは次のようになります。

Out	In	Pr	In	Pr	In	Pr
1	1.1	High	2.1	High	3.1	2
2	1.2	High	2.2	High	3.2	2
3	1.3	High	2.3	High	3.3	2
4	1.4	High	2.4	High	3.4	2
5	1.5	High	2.5	High	3.5	2
6	1.6	High	2.6	High	3.6	2
7	1.7	High	2.7	High	3.7	2
8	1.8	High	2.8	High	3.8	2
9	1.9	High	2.9	High	3.9	2

(途中省略)

502	1.502	High	2.502	High	3.502	2
503	1.503	High	2.503	High	3.503	2
504	1.504	High	2.504	High	3.504	2
505	1.505	High	2.505	High	3.505	2
506	1.506	High	2.506	High	3.506	2
507	1.507	High	2.507	High	3.507	2
508	1.508	High	2.508	High	3.508	2
509	1.509	High	2.509	High	3.509	2
510	1.510	High	2.510	High	3.510	2
511	1.511	High	2.511	High	3.511	2
512	1.512	High	2.512	High	3.512	2

Dot Notation Command line: 1-512*1.1-1.512+2.1-2.512/3.1-3.512

1つのコマンドで、高優先度のユニバース 1、チャンネル 1~512、同じ(高)優先度のユニバース 2、チャンネル 1~512、および次に低い優先度(2)のユニバース 3、チャンネル 1~512 を追加しました。

※ チャンネルの全範囲(1-512)を使用する場合、2番目の番号は技術的に必要ありません。

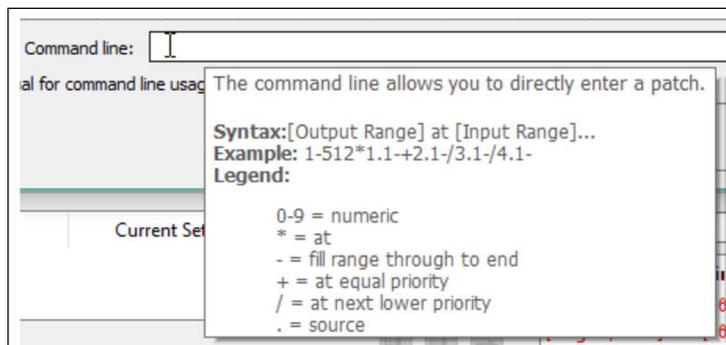
出力範囲 1~512 を指定するには、“512”をドロップして”1-“と入力します。

入力範囲についても同じで、“1.1-1.512”と入力する代わりに、“1.1-“と入力するだけです。

1-512*1.1-1.512+2.1-2.512/3.1-3.512 = 1- * 1.1- + 2.1- / 3.1-

コマンドラインを使用して、1~512 未満の範囲のチャンネルにパッチを適用する場合は、2番目の数値が必要になることに注意してください。

※ [Command Line]フィールドにカーソルを合わせると、構文のヒントとコマンド例がツールチップに表示されます。



カスタムパッチを保存するには、ウィンドウの右下隅にある[Save]ボタンをクリックします。

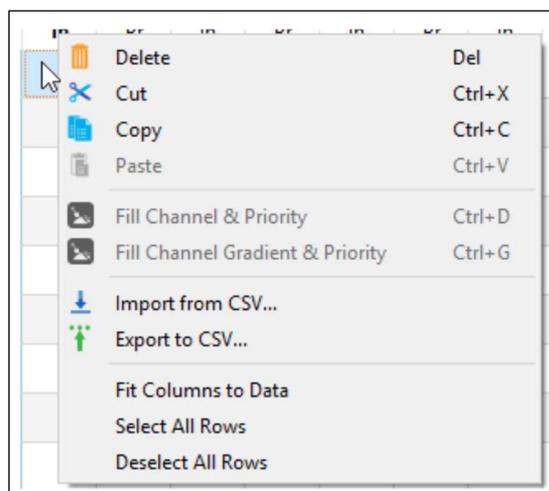
カスタムパッチに名前を付けてください。

変更を破棄して Advanced Patch ウィンドウを終了するには、[Exit]ボタンをクリックします。

便利な右クリックメニュー項目

Advanced Patch Editor では、右クリックメニューに役立つメニュー項目がいくつかあります。

メインチャネルグリッド領域を右クリックして、メニューを表示します。



Delete : 選択したセルがすべて削除されます。DEL キーを使用することもできます。

Cut : チャンネルパッチグリッドの他の場所に貼り付けるために、選択したセルを切り取ります。

Copy : チャンネルパッチグリッドの他の場所に貼り付けるために、選択したセルをコピーします。

Paste : 選択したセルから始めて、コピーまたは切り取ったセルの値を貼り付けます。

Fill Channel & Priority / Fill Channel Gradient & Priority : フィルチャンネルの使用セクション参照

Import from CSV... : Pathscape から生成されたコンマ区切り値 (CSV) ファイルから値をインポートし、チャンネルパッチグリッドに入力します。このアイテムをクリックすると、ファイルを開くダイアログが表示されます。
CSV ファイルを選択し、[Open] ボタンをクリックします。

Export from CSV... : 現在のチャンネルパッチグリッドを CSV ファイルにエクスポートして、別のマシンにインポートします。このアイテムをクリックすると、ファイルの保存ダイアログが表示されます。
ファイルの名前を入力して、[Save] をクリックします。

Fit Columns to Data : 画面のデータに合わせて列の幅を縮小しようとします。

Select All Rows : すべての行が選択され、すべての行の選択を解除するとそれらの選択が解除されます。

■ VIA Switches

▼ Online	Rack VIA 10	10.7.162.100
	1	Uno
	2	2-Port
	3	Quattro
	4	TE
	5	Entrance NSB
	6	Port 6
	7	Port 7

◇ VIA Properties

Basic Priorities

Basic Properties	
Device Name	<input type="text" value="Rack VIA12 6750"/>
Device Notes	<input type="text"/>
MAC Address	00:04:a1:1e:8d:f3
Firmware Version	5.0.7
Identify Device	<input type="checkbox"/>
Serial Number	PP2002419
Front Panel Lockout	<input type="checkbox"/>
LCD Backlight	<input type="checkbox"/>
Device Type	VIA12

Device Name : 機器用のユーザー構成のソフトラベル。空白のままにすると(デフォルトでは)、表示されるデバイス名は機器の IP アドレスになります。
6730 および 674x モデルの前面 LCD に表示されます。

Device Notes : デバイスビューに表示される、ユーザーが構成したテキストの説明フィールド

MAC Address : 工場で設定されたハードウェアアドレス。読み取り専用。

Firmware Version : 現在動作しているファームウェアのバージョンを表示します。読み取り専用

Identify Device : このボックスをチェックすると、デバイスが識別動作を開始します
(LCD バックライトの点滅、識別 LED)

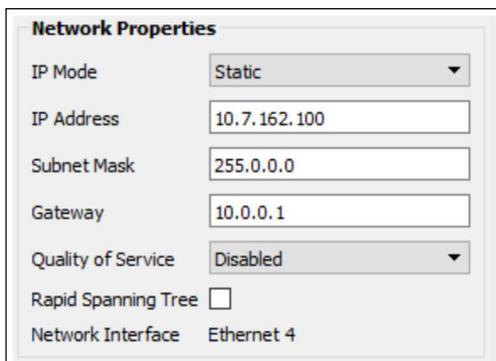
Serial Number : 工場で設定された固有の識別番号。読み取り専用

Front Panel Lockout : これをチェックすると、デバイスのフロントパネルのローカルコントロールがロックされます(6730 および 674x モデルのみ)。メニューをスクロールすると、プロパティを読み取ることができますが、プロパティを変更することはできません。

LCD Backlight : これをチェックすると、デバイスのフロントパネルの LCD バックライトが有効になります(6730 および 674x モデルのみ)。

Device Type : 現在選択されているデバイスのデバイスタイプ。

Network Properties



IP Mode	Static
IP Address	10.7.162.100
Subnet Mask	255.0.0.0
Gateway	10.0.0.1
Quality of Service	Disabled
Rapid Spanning Tree	<input type="checkbox"/>
Network Interface	Ethernet 4

IP Mode : デバイスの IP モードを設定します。オプションは、Disabled、Static、Dynamic です。

Disabled : このデバイスに IP は割り当てられていません。

Static : ユーザーが手動で設定した IP 設定。

Dynamic : DHCP サーバーから取得した IP 設定。

IP Address : このスイッチのユーザー設定のインターネットプロトコルアドレス (IPv4)。

VLAN が有効な場合、IP アドレスはデフォルトで管理 VLAN ID# に適用されます。

Subnet Mask : ユーザー設定のサブネットマスク。VLAN が有効な場合、サブネットマスクはデフォルトで管理 VLAN ID# によって使用されます。

Gateway : 割り当てられたサブネット外のアドレスを要求するこのスイッチ (または有効な場合は VLAN) 上のネットワークトラフィックは、この IP アドレスを介してルーティングされます。

Quality of Service

Disabled (デフォルト)

Standard ... トラフィックは重み付けアルゴリズムを使用してルーティングされ、優先度の高いトラフィックをタイムリーに配信し、優先度の低いトラフィックを最終的に配信します。

Dante Strict ... Dante 固有の重み付けを使用して、優先順位が厳密に守られます。優先度の低いトラフィックは、Dante の優先度の高いパケットを確実に配信するために、ドロップまたは無視される場合があります。

Rapid Spanning Tree : RSTP (高速スパンニングツリープロトコル) を有効または無効にします。

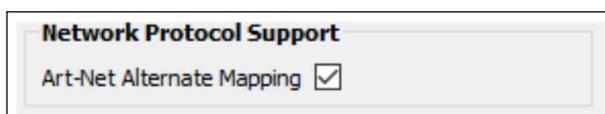
RSTP は、イーサネットループ (ポートが同じ VLAN にある同じ 2 つのスイッチ間の 2 つの Cat5 ケーブル) を自動的に検出します。RSTP をオンにしないと、ループのあるネットワークのパフォーマンスは非常に低下します。

Network Interface : デバイスが Pathscope を実行しているマシンと通信している NIC (ネットワークインターフェイスカード) の名前を示します。

VLAN Properties

VLAN Support/VLAN Range Start/VLAN Range End/Management VLAN の項目があります。
これらは VIA Device Properties ペインで直接編集できません(灰色で表示されます)。VLAN Config ウィンドウの **VLAN Global Properties** ウィンドウまたは **Settings** メニューでこれらのパラメータを編集します。
(現在設定されている値はここに表示されています)

Network Protocol Support



The screenshot shows a window titled "Network Protocol Support" with a single checkbox labeled "Art-Net Alternate Mapping" which is checked.

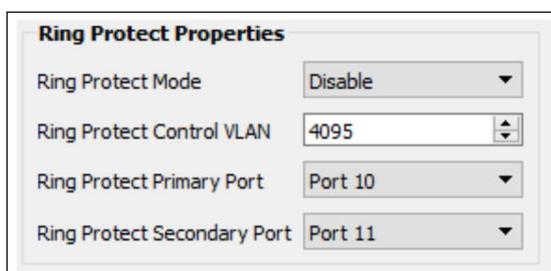
Art-Net Alternate Mapping : Enabled(デフォルト)

Art-Net Trap&Conver と組み合わせて使用

Enabled ... Art-Net ユニバース 0:0 = ユニバース 1

Disabled ... Art-Net ユニバース 0:1 = ユニバース 1

Ring Protect Properties



The screenshot shows a window titled "Ring Protect Properties" with four dropdown menus: "Ring Protect Mode" set to "Disable", "Ring Protect Control VLAN" set to "4095", "Ring Protect Primary Port" set to "Port 10", and "Ring Protect Secondary Port" set to "Port 11".

Ring Protect Mode : Disabled(デフォルト) ... VIA5 モデルではサポートされていません

Enabled ... EAPS を使用して、VIA スイッチを物理配線リングに接続

Ring Protect Control VLAN : 専用のリング保護 VLAN を指定します。有効な範囲は 1~4095。
デフォルト(4095)の使用を推奨。

この値は、定義された VLAN Range 外である必要があります。

Ring Protect Primary Port : モデル 6740、6742 ... ポート 11、12、13、14 から選択

モデル 6730 ... ポート 9、10、11 から選択

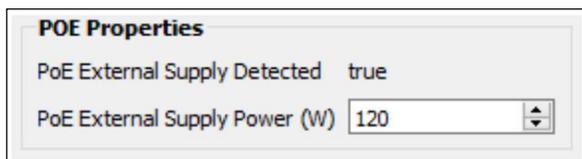
モデル 6716 ... ポート 15、16、17、18 から選択

Ring Protect Secondary Port : モデル 6740、6741、6742 ... ポート 11、12、13、14 から選択

モデル 6730 ... ポート 9、10、11 から選択

モデル 6716 ... ポート 15、16、17、18 から選択

PoE Properties



POE Properties
PoE External Supply Detected true
PoE External Supply Power (W) 120

PoE External Supply Detected / PoE 外部電源が検出

: VIA スイッチが外部 PoE 電源を検出した場合は true を示し、検出しない場合は false を示します。読み取り専用。

VIA10 スイッチは 60W の内部 PoE を備えていますが、外部 PoE 電源を受け入れることもできます。内部電源のみで VIA10 を実行している場合、これは引き続き false として表示され、外部電源フィールドに入力する必要はありません。

PoE External Supply Power(W) / PoE 外部供給電力(W)

: 外部 PoE 電源を接続する場合、スイッチの PoE が正しく機能するように、ワットでの電力定格をここに入力する必要があります。

PoE Total Drawn(W) / PoE 総消費電力(W)

: すべての PoE 対応ポート全体の合計 PoE 消費電力をワットで表示します。読み取り専用。

Advanced Properties

User ID : 外部データベースのカスタム数値 ID。

■ VIA Switch Ports

VIA Switch サブデバイスは、銅線 RJ45 ポート  またはファイバーポート  のいずれかのイーサネットポートです。ポートアイコンの色はリンクステータスと速度を反映しています。色は、両方のタイプのポートアイコンに適用されます。

Status	Device Name	Subdev #	Subdev Name
Online	Rack VIA 10		
		1	Uno
		2	2-Port
		3	Quattro
		4	TE

Icon Color	Status
Grey 	Link Down (no downstream device connected)
Blue 	1 Gigabit
Green 	100 Megabit, full or half duplex
Orange 	10 Megabit, full or half duplex

選択したスイッチのポートでサポートされているプロパティのみがプロパティペインに表示されます。

◇ Port Properties

Basic Properties

Basic Properties	
Subdevice Name	Quattro
Subdevice Notes	
Link Mode	Auto Negotiate
Link Status	Link Up 100Mbit Full Duplex
Port Type	Gigabit Capable Copper RJ45
LLDP Partner	Rack Quattro
Network Properties	
Forwarding State	Forwarding all traffic
Bandwidth Percentage	0

Subdevice Name : サブデバイス/ポートのユーザー構成のソフトラベル。
デバイスビューとスイッチのフロントパネルディスプレイに表示

Subdevice Name : Device ウィンドウに表示されるユーザー構成のテキスト説明フィールド

Link Mode : 指定されたポートのリンクモードを設定します。

Disabled … 実質的にポートをオフにします

Auto Negotiate (Default) … スイッチとエンドデバイス間のやり取りで設定されたリンク速度

10Mbit Half Duplex

10Mbit Full Duplex

100Mbit Half Duplex

100Mbit Full Duplex

1Gbit Full Duplex

Link Status : 現在のリンクの状態と速度を報告します。読み取り専用。

Last Link Change : ポートリンクステータスの最後の変更から経過した時間を表示

表示形式は X(日)、HH:MM:SS(時間:分:秒)

ポートが予期せずダウンしたかどうかを判断するための診断またはトラブルシューティングの目的で役立ちます。

SFP Module Type : 検出された Small Form Pluggable 光ファイバーアダプターのタイプを表示

モデル 6740、6742、6730 のポート 11、モデル 6706 のポート 6、モデル 6716 のポート 17、18 に適用。読み取り専用

Port Type : ポートタイプのレポート。読み取り専用。

Gigabit Capable SFP Slot

Gigabit Capable Copper RJ45

Fast Ethernet Capable Copper RJ45

LLDP Partner/LLDP Partner MAC : Link Layer Discovery Protocol をサポートする接続デバイスの MAC アドレスを報告します。

接続されている機器が Pathway 製品の場合、MAC アドレスではなくその名前が表示されます。読み取り専用。

Network Properties

Forwarding State : RSTP や EAPS の状態。読み取り専用。

Forwarding all Traffic …通常の状態

Blocked by RSTP …ループを検出し、ポートをブロックしてフィードバックを停止

Blocked by EAPS … プライマリーポートを使用しているリング

Bandwidth Percentage : リンクモードに基づいて、ポートを通過するトラフィック量をパーセンテージ (0~100%) で表示。数秒ごとに更新されます。読み取り専用。

VLAN Properties

VLAN Properties

VLAN Tagged

VLAN

Network Protocol Support

Art-Net Trap and Convert Enable

POE Properties

PoE

PoE Status Class 2 (7 W)

PoE Active Draw (W) 1.51

PoE Power Allocation (W) 7

PoE Max Allocation

VLAN Tagged : VLAN が有効になっている場合は、ポートを Tagged/Uplink として設定して、スイッチ間ですべての VLAN のデータを送信します。

Tagged : スイッチ間を接続するためにのみ使用

Untagged (デフォルト) : ほとんどのアプリケーションでは、エンドデバイスに接続するために使用されます。

VLAN : ポートが使用する VLAN ID #を設定します。

VLAN が有効になっている場合にのみ、Untagged ポートに適用されます。

Network Protocol Support

Art-Net Trap and Convert Enable

: Disabled (Default)

Enabled … 入力されてきた Art-Net ブロードキャストパケットは、最初に送信されたのと同じユニバース番号を使用して E1.31 sACN マルチキャストデータパケットに変換されます。sACN を使用する大規模なシステムでは、IGMP を有効にしてネットワークトラフィックを削減する必要があります。

PoE Properties

PoE : Enabled (Default) … ポートは、接続されているすべての PoE 対応デバイスへの電力供給を試みます

Disabled … PoE はエンドデバイスに提供されません。

PoE Status : エンドデバイスによって報告される PoE クラス。読み取り専用。

Not Detected (エンドデバイスに PoE 機器が無い)

Class 0 (15.4W)

Class 1 (5.4W)

Class 2 (11.7W)

Class 3 (15.4W)

PoE Active Drawn (W) : 現在の PoE デバイスの消費電力をワットで表示。読み取り専用。

PoE Power Allocation (W) : エンドデバイスから報告された PoE デバイスの分類に基づいて、ポートへの電力割り当てを報告します。読み取り専用。

PoE Max Allocation

: ポートに割り当てられる電力を設定します。

スイッチが使用可能な残りの PoE 電力プールを決定できるようにしますが、エンドデバイスがこの値を超える電力を要求して利用することを妨げません。

値は、900mW、1.8W、2.7W、3.6W、4.5W、5.4W、6.3W、7.2W、8.1W、9W、9.9W、10.8W、11.7W、12.6W、13.5W、14.4W および 15.4W です。

■ Pathport Gateways

選択したゲートウェイのポートでサポートされているプロパティのみがプロパティペインに表示されます。

◇ Pathport Properties

Basic Properties

Basic Properties	
Device Name	<input type="text" value="Rack Quattro"/>
Device Notes	<input type="text" value="Rolling Rack"/>
MAC Address	00:04:a1:1e:85:a4
Firmware Version	5.0.5.8
Identify Device	<input type="checkbox"/>
Serial Number	PP2000292

Front Panel Lockout	<input type="checkbox"/>
LCD Backlight	<input type="checkbox"/>
LLDP Partner	Rack Bottom
LLDP Partner MAC	00:04:a1:07:a2:7b
LLDP Partner Port	9
Device Type	Pathport QUATTRO

Device Name : ゲートウェイのユーザー構成のソフトラベル。空白のままにすると(デフォルトでは)表示されるデバイス名はデバイスの IP アドレスになります。
デバイスウィンドウとゲートウェイフロントディスプレイに表示されます。

Device Notes : デバイスビューに表示される、ユーザーが構成したテキストの説明フィールド。

MAC Address : 工場で設定されたハードウェアアドレス。読み取り専用。

Firmware Version : 現在動作しているファームウェアのバージョンを表示します。読み取り専用。

Identify Device : このボックスをチェックすると、デバイスが識別動作を開始します
(LCD バックライトの点滅、識別 LED)。

Serial Number : 工場で設定された固有の識別番号。読み取り専用。

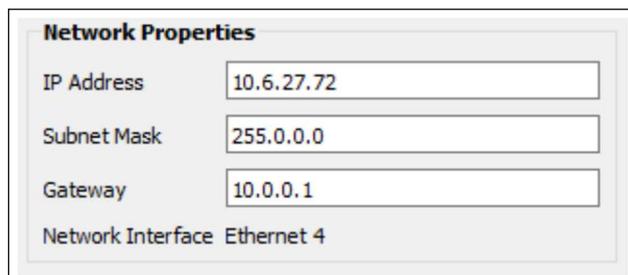
LED Intensity : UNO / 6821/1011(1ポートゲートウェイ)モデルのみ。
インジケータLEDの明るさを設定します。値は Dim または Bright です。

Front Panel Lockout : これをチェックすると、デバイスのフロントパネルのローカルコントロールがロックされます。メニューをスクロールすると、プロパティを読み取ることができますが、プロパティを変更することはできません。

LCD Backlight : これをチェックすると、デバイスのフロントパネルの LCD バックライトが有効になります。

Device Type : 現在選択されているデバイスのデバイスタイプ。

Network Properties



The screenshot shows a 'Network Properties' dialog box with the following fields:

IP Address	10.6.27.72
Subnet Mask	255.0.0.0
Gateway	10.0.0.1
Network Interface	Ethernet 4

BootP Enabled : C シリーズおよび UNO / 6821/1011 モデルのみ。

機器が Static IP アドレスを使用する(disabled)か、VIA スイッチの BootP (DHCP と同様)サーバーから動的 IP を取得する(Enabled)かを構成します。
デフォルトは disabled(無効)

IP Address : ゲートウェイのインターネットプロトコルアドレス(IPv4)。

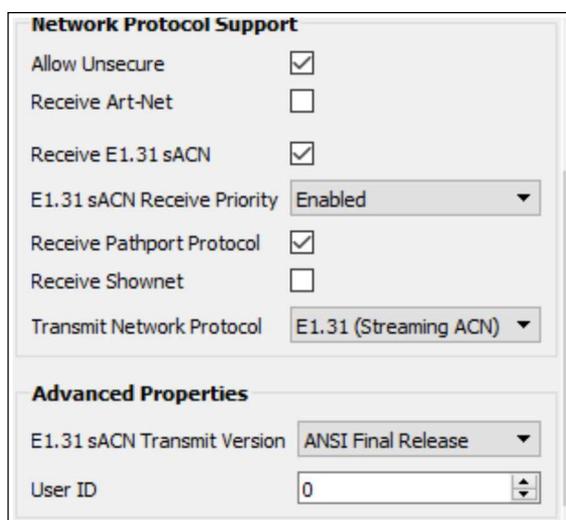
Subnet Mask : ユーザー設定のサブネットマスク。通常は 255.255.255.0。

一般的なネットワークルールに従って設定する必要があります。

Gateway : ゲートウェイではほとんど使用されません。

Network Interface : デバイスが Pathscape を実行しているマシンと通信している NIC(ネットワークインターフェイスカード)の名前を示します。

Network Protocol Support



The screenshot shows a 'Network Protocol Support' dialog box with the following settings:

Allow Unsecure	<input checked="" type="checkbox"/>
Receive Art-Net	<input type="checkbox"/>
Receive E1.31 sACN	<input checked="" type="checkbox"/>
E1.31 sACN Receive Priority	Enabled
Receive Pathport Protocol	<input checked="" type="checkbox"/>
Receive Shownet	<input type="checkbox"/>
Transmit Network Protocol	E1.31 (Streaming ACN)

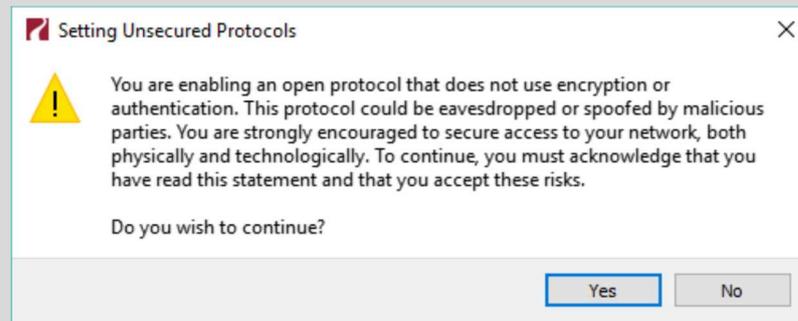
Advanced Properties

E1.31 sACN Transmit Version	ANSI Final Release
User ID	0

Allow Unsecure

: sACN、Pathport、Art-Net、Shownet などの安全でないネットワークプロトコルを使用するにはこのチェックボックスを有効にする必要があります。

オンにすると、ウィンドウが表示され、安全でないネットワークプロトコルの使用に関連するリスクを受け入れるように求められます。



Receive Protocol

: 受信するプロトコルを決定するために 4 つのプロパティが存在し、出力ポートに反映されます (ゲートウェイ上のポートが出力として構成されている場合)

DMX パッチウィンドウで定義された出力ポートにパッチされます。

サポートされている 4 つのイーサネットプロトコルは、Art-Net、sACN、Pathport Protocol、ShowNet で、該当するものをチェックします。(4 つすべての受信は有効)

E1.31 sACN Receive Priority

: このオプションはデフォルトで有効になっており、プロトコルに埋め込まれた Priority タグに基づいて出力されるコントローラーのレベルを調整します。

同じ優先度の、異なるコントローラーからの複数の着信パケットは HTP (Highest Takes Precedence) でマージします。異なる場合は優先度の高いものを出力します。

推奨されるデフォルトの Priority Controllers の出力は 100 です。

有効な優先度は 1~200 で、200 が最も高い優先度です。

この機能を無効にすると、パケットの Priority タグが完全に無視されます。

Transmit Network Protocol

: ゲートウェイに入力設定したポートがある場合、受信した DMX512 はこのプロトコルを使用してネットワークに配信されます。サポートされている 4 つのイーサネットプロトコルは、Pathport、Art-Net、Strand ShowNet、sACN です。

E1.31 sACN Transmit Version

: **Pre-release Draft 20** または **ANSI Final Release** (default)。送信プロトコルが E1.31 sACN に設定されている場合にのみ使用できます。

Advanced Properties

Patch Jumper Locked

: UNO / 6821/1011 1ポートゲートウェイモデルのみ。ユニバースパッチを手動で選択するためのボード上の DIP スイッチのステータスを表示します。True は、ジャンパーが設定されていることを示します。false は、パッチのソフトウェア構成を許可します。

User ID : 外部データベースのカスタム数値 ID。

◇ Pathport Port Properties

Pathport Gateway サブデバイスは DMX ポートです。ゲートウェイには 1~8 個のポートがあります。ポートの方向は、入力(DMX512を受信して xDMX をネットワークに配置)または出力(xDMX を、サポートされている 4 つのプロトコルのいずれかから DMX512 に変換)のいずれかです。出力ポートは、RDM コントローラーとして構成することもできます。ポートの方向に基づくプロパティの 2 つのテーブルがあります。

Status	Device Type	Subdev #	Subdev Name
▼  Online	Pathport OCTO		
		A	Port A
		B	Port B
		C	Port C
		D	Port D

◇ Output ポートのプロパティ

Basic Properties	
Subdevice Name	<input type="text" value="Port B"/>
Subdevice Notes	<input type="text" value="A"/>
DMX Port	
DMX512 Enable	<input type="text" value="Enabled"/>
Port Direction	<input type="text" value="Output"/>
DMX512 Status	Active
Output Patch Name	Univ 2
DMX512 Output Speed	<input type="text" value="Maximum"/>
Crossfade Enable	<input type="checkbox"/>

Basic Properties

Subdevice Name

: ユーザーが構成したポートのソフトラベル。デフォルトは、ゲートウェイ上のポートの数に基づいて、ポートに A~H のラベルが付けられます。DMX512 ケーブルの接続先またはその機能に基づいてポートにラベルを付けることを推奨します。

Subdevice Name : 装備されている場合は、デバイスウィンドウと Gateway のフロントディスプレイに表示されるユーザー構成のテキスト説明フィールド。

DMX Port

DMX512 Enable : デバッグなどの目的で、DMX ポートを無効にすることができます。他のすべてのプロパティは変更されません。DMX512 ケーブルを抜くことと電氣的に同等です。

Port Direction : Input または Output。この表は、出力ポートのプロパティを示しています。

DMX512 Status : DMX512 ポートの動作状態を表示します。DMX512 をアクティブに送信している場合は **Active** と表示し、そうでない場合は **Inactive** と表示します。読み取り専用。

Output Patch Name : DMX パッチの名称を表示。このペインでは読み取り専用です。

DMX512 Output Speed : DMX 出力時の更新回数を設定します。
値は、**Maximum(42 Hz)**、**Fast**、**Medium**、**Slow(30 Hz)**です。

Crossfade Enable : Pathscape DMX Patch Priority または E1.31 sACN Priority で定義されているようにプライオリティが変更されると、ゲートウェイは新しいレベルにスナップするのではなくフェードします。
古いソースの最後のフレームは、フェード中にフリーズします。

Crossfade Time (S) : 上記の Crossfade Enable で定義した、クロスフェード時間を設定します。

Network Protocol Support

Network Protocol Support xDMX Status <input checked="" type="checkbox"/> Active E1.31 sACN Per-Channel Priority <input type="checkbox"/>	xDMX Loss Fade <input checked="" type="checkbox"/> xDMX Loss Fade Time (s) 5.000 xDMX Loss Port Shutdown <input checked="" type="checkbox"/>
Signal Loss xDMX Loss Hold Forever <input type="checkbox"/> xDMX Loss Hold Time (s) 5.000	RDM Properties E1.20 RDM Enable <input checked="" type="checkbox"/> E1.20 RDM Background Discovery <input type="checkbox"/>

xDMX Status : この出力ポートの xDMX ソースの状態を表示します。xDMX ストリームが存在する場合は **Active** と表示され、xDMX ストリームが失われると **Inactive** と表示されます。

E1.31 sACN Per-Channel Priority

: ゲートウェイ DMX プロパティには、ゲートウェイがユニバースヘッダーの優先度(1~200)に準拠するかどうかを決定する sACN 入力優先度があります。このプロパティは、それをユニバースの各スロットに拡張します。デフォルトではオフになっています。

Signal Loss

xDMX Loss Hold Forever

: Enabled の場合、DMX 出力ポートは、xDMX 信号が失われた場合に、最後に受信したパケットを無期限に出力し続けます。

(Signal Loss Hold Time、Signal Loss Fade、Signal Loss Port Shutdown は無視されます)

xDMX Loss Hold Time (s)

: Signal Loss Fade または Signal Loss Port Shutdown が有効な場合、ポートは、この時間が経過するまで、受信した最後のパケットを出力し続けます。

xDMX Loss Fade

: xDMX ストリームが停止すると、DMX512 の 512 スロットすべてが 0%の値にフェードします。

xDMX Loss Fade Time (s) : Signal Loss Fade が有効な場合に適用されます。

上記の xDMX Loss Fade が発生する時間を定義します。

xDMX Loss Port Shutdown

: xDMX ストリームが停止し、Signal Loss Hold Forever が無効で、Signal Loss Fade Time の時間が過ぎると、ポートは OFF になります。DMX512 ケーブルを抜くことと電氣的に同等です。これはデフォルトで有効になっています。

RDM Properties

Pathscope は、RDM 機器を識別し、モードや開始アドレスなどのプロパティを設定できる非常に強力な RDM コントローラーです。

E1.20 RDM Enable : Enabled (Default)

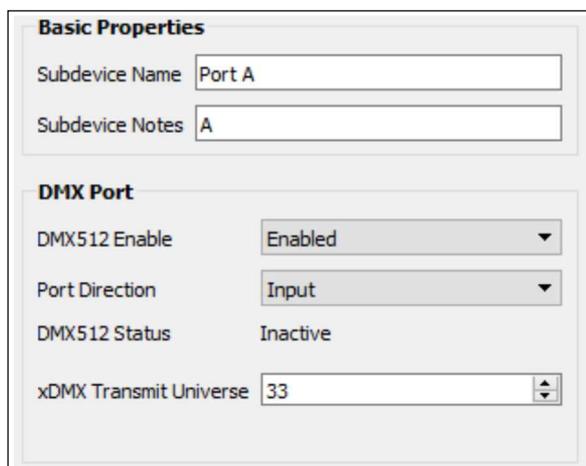
Disabled ... DMX リンクで Alternate Start Code パケットは送信されません。
(RDM に準拠していない機器は、RDM パケットに正しく反応しない場合がある)

E1.20 RDM Background Discovery

: このポートの RDM デバイスの数に応じて、検出には 1 秒から数分かかることがあります。
バックグラウンド検出をオンにすると、ゲートウェイはどのデバイスがオンラインかオフラインかを最新のリストに保つことができます。

RDM Device Count : 選択した DMX ポートで検出された RDM デバイスの数を表示。読み取り専用

◇ Input Port Properties



Basic Properties

Subdevice Name

: ユーザーが構成したポートのソフトラベル。
デフォルトでは、ゲートウェイのポート数に基づいて、ポートに A~H のラベルが付けられます。
DMX512 ケーブルの接続元に基づいてポートにラベルを付けることを推奨します。

Subdevice Notes : 装備されている場合、Device ウィンドウとゲートウェイの前面に表示される
ユーザー構成のテキスト説明フィールド。

DMX Port

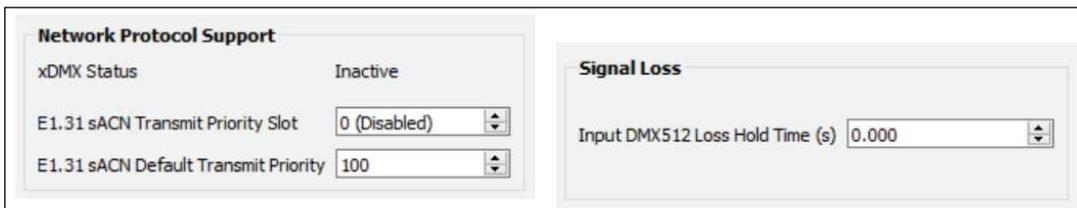
DMX512 Enable : デバッグなどの目的で、DMX ポートを無効にすることができます。
他のすべてのプロパティは変更されません。
DMX512 ケーブルを抜くことと電氣的に同等です。

Port Direction : Input または Output。この表は、入力ポートのプロパティを示しています。

DMX512 Status : **Active** の場合、DMX512 の有効なソースがゲートウェイに入力しています。
読み取り専用。

xDMX Transmit Universe : ポートがネットワーク経由で xDMX を出力するように設定されている
ネットワーク送信ユニバース番号を示します。

Network Protocol Support



The image shows two configuration panels. The left panel, titled 'Network Protocol Support', contains the following settings: 'xDMX Status' is set to 'Inactive'; 'E1.31 sACN Transmit Priority Slot' is set to '0 (Disabled)'; and 'E1.31 sACN Default Transmit Priority' is set to '100'. The right panel, titled 'Signal Loss', contains the setting: 'Input DMX512 Loss Hold Time (s)' is set to '0.000'.

xDMX Status : これと上記の DMX512 ステータスの違いを Maurits に確認してください

E1.31 sACN Default Transmit Property

: DMX512 がネットワーク上に E1.31 sACN として配信されている場合、DMX Patch ウィンドウで定義されたパッチに従って、有効な優先度が必要です。出力ポートでは、優先度が一致する場合、異なる入力ポートからの複数のソースが HTP レベルでマージされ、そうでない場合は調整します。デフォルトの優先順位は 100 です。有効な優先順位は 1~200 で、200 が可能な最高の優先順位です。

E1.31 sACN Transmit Priority Slot

: 上記のように、送信元からの 512 スロットの 1 つを割り当てて、送信優先度を設定できます。
d200 の値 (約 78%) は優先度 200 に変換されます。ゼロ値は優先度 1 に変換されます。
優先度は E1.31 で最も低くなります。

Signal Loss

Input DMX512 Loss Hold Time (s)

: DMX512 ソースが停止すると、xDMX は、ゲートウェイが受信した最後のパケットからこの
タイマーが期限切れになるまでのレベルを使用して、ネットワークに更新され続けます。

■ SixEye Properties

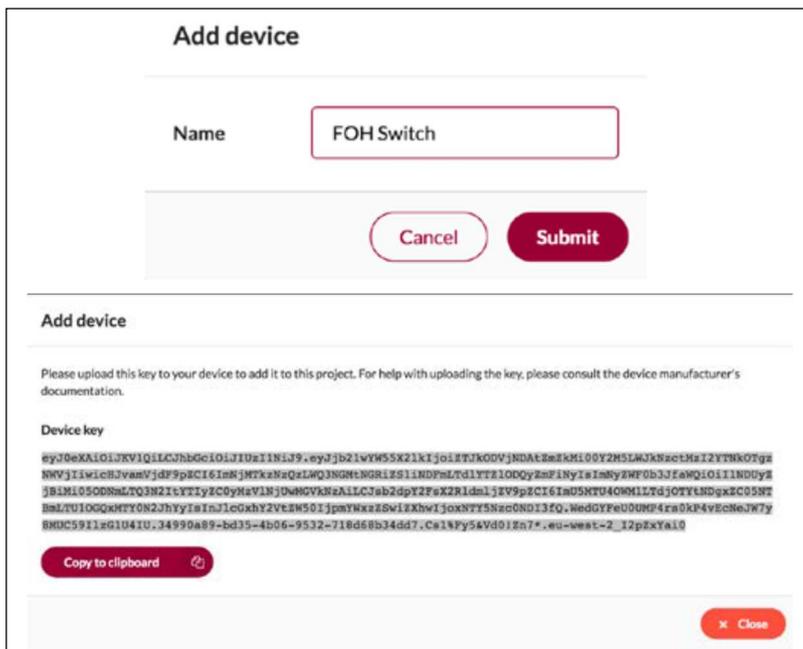
SixEye はクラウドベースのリモート管理サービスであり、一部の Pathway 製品 (現時点では、ハードウェア更新バージョンの OCTO、QUATTRO、6824 4 ポートゲートウェイ、VIA16、およびビネットクロック) で利用可能で、今後さらに追加される予定です。

SixEye はいくつかの製品ファミリーで利用できるため、そのプロパティはここに個別にリストされます。

Remote Monitoring and Management Properties



機器を SixEye リモート管理ポータルに接続するには、ポータルにログインして Add Device を選択します。名前を付けると、その新しいデバイスの SixEye デバイスキーを受け取ります。

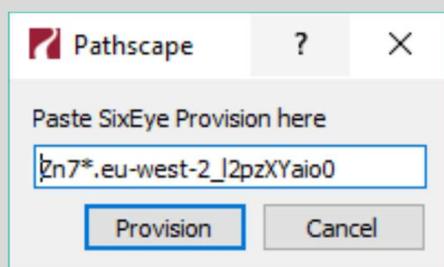


[Copy to Clipboard] ボタンをクリックして、デバイスキーをシステムのクリップボードにコピーします。

SixEye Provision

: このボタンをクリックすると、SixEye Provision ウィンドウが開きます。

このフィールドに、以前にコピーしたデバイスキーを貼り付け、Provision をクリックします。



SixEye Status : これは、SixEye 接続の状態を示しています。

Unprovisioned (default)

No Internet Connection … 機器がインターネット接続を見つけることに問題があります。デバイスの IP 設定を確認します。

DNS Failure … デバイスは接続を検出しましたが、DNS に問題があります。デバイスの IP 設定を確認します。

Invalid System Time : 機器はインターネットに接続されていますが、システム時刻に問題があります。機器の NTP サーバー設定を確認します。

SixEye Init Error : 機器は、SixEye との接続を開始できませんでした。

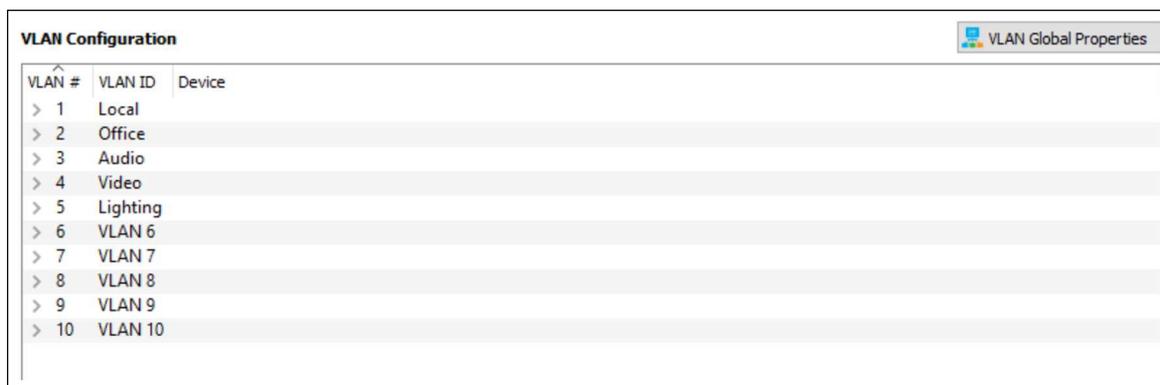
Not Connected : 機器は現在 SixEye に接続されていません。

Connected : 機器は SixEye に接続されています。

■ VLAN Config

[VLAN Config]タブを使用して、ネットワーク VLAN を構成します。

VLAN (Virtual Local Area Network / 仮想ローカルエリアネットワーク) は、同じ VLAN 番号のポート同士ではデータ通信を行うが、異なる VLAN 番号のポートにはおこなわない、スイッチ上のポートのグループです。VLAN が確立されると、すべての VLAN トラフィックを通過させるために、スイッチ間を接続するポートは "tagged" にする必要があります。



VLAN #	VLAN ID	Device
> 1	Local	
> 2	Office	
> 3	Audio	
> 4	Video	
> 5	Lighting	
> 6	VLAN 6	
> 7	VLAN 7	
> 8	VLAN 8	
> 9	VLAN 9	
> 10	VLAN 10	

VLAN Configuration ウィンドウには、VLAN#、VLAN ID、Device の 3 つの列があります。

デフォルトでは、VLAN ID "VLAN 1"、"VLAN 2" などのラベルが付けられます。

各 VLAN の横にある矢印をクリックして、構成に使用できる機器 (VIA スイッチ) を表示します。



▼ 3	Audio	Rack VIA5
> 4	Video	
▼ 5	Lighting	Rack VIA5 Wall VIA16 Desk VIA 12 Rack VIA 10

※ ネットワーク上のすべての VIA スイッチが、リストされているすべての VLAN の下に表示されます。VLAN Ranges はグローバルに構成されます。このウィンドウでは、スイッチを 1 つの VLAN にのみ割り当てることはできません。サブデバイス/ポートレベルでは、必要に応じて VLAN を割り当てることができます。

IP アドレス、DHCP、IGMP 設定などの VLAN プロパティは、スイッチごとに VLAN ごとに構成されます。

VLAN プロパティについては以下で説明します。

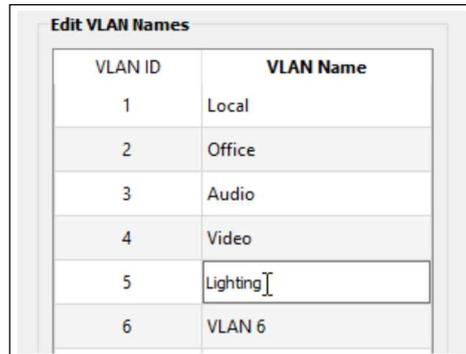
◇ VLAN Global Properties

VLAN を使用するには、VLAN Global Properties で VLAN Support を有効にする必要があります。これには、ウィンドウの右上隅にある VLAN Global Properties ボタンをクリックしてアクセスします。

VLAN Global Properties ウィンドウには、VLAN Names パネルと Advanced Properties パネルの 2 つのセクションがあります。それぞれのパネルの▽を押すと、項目が表示されます。

VLAN Names パネル : 使用可能な VLAN の名前を編集できます。

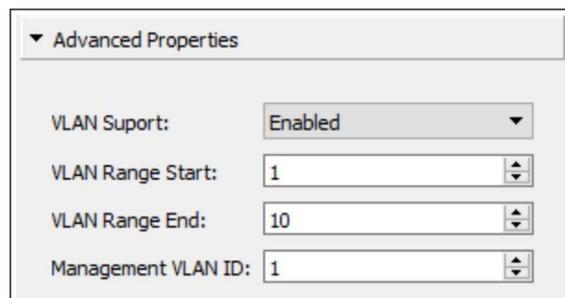
VLAN 名をダブルクリックして編集し、[Commit]ボタンをクリックします。



VLAN ID	VLAN Name
1	Local
2	Office
3	Audio
4	Video
5	Lighting
6	VLAN 6

その後、Transaction Editor にいくつかのトランザクションが表示され、自動的に送信されます。
変更を破棄する場合は、[Cancel]ボタンをクリックしてください。

Advanced Properties パネル : VLAN Range、Management VLAN、VLAN Support のオンとオフをグローバルに設定できます。



▼ Advanced Properties

VLAN Support: Enabled

VLAN Range Start: 1

VLAN Range End: 10

Management VLAN ID: 1

※ 警告 ※

これらの Global VLAN Properties のいずれかを変更すると、接続が失われる可能性があります。
その場合、Pathscope を使用してこれらの機器のプロパティを設定できなくなります。

VLAN Support : ドロップダウンメニューで VLAN を有効または無効にできます。

VLAN Range Start / VLAN Range End

: 使用可能な VLAN ID の範囲を決定します。デフォルトはそれぞれ 1 と 10 です。
変更したい場合は、数値を入力し、[Commit]ボタンをクリックしてください。
Transaction Editor にいくつかのトランザクションが表示され、自動的に送信されます。
変更を破棄する場合は、[Clear]ボタンをクリックしてください。

Management VLAN ID

: スイッチを管理するプロセッサが使用する VLAN を設定します。(デフォルトは 1)
Management VLAN ID は、VLANRange Start と同じ値に設定します。
Management VLAN がスイッチの少なくとも 1 つの[Normal/Untagged]ポートで使用するよう
にしてください。そうしないと、スイッチを構成する機能が失われる可能性があります。

◇ VLAN Properties/Service

これらのサービスを構成する前に、VLAN を有効にする必要があります。VLAN Enable/Disable プロパティは、VLAN Config ウィンドウの **VLAN Global Properties** ウィンドウまたは設定メニューの下にあります。

Network Properties	
IP Mode	Static
IP Address	10.7.201.142
Subnet Mask	255.0.0.0
Gateway	10.0.0.1
DHCP Server	
DHCP Server	Enabled
DHCP Server Range Start	0.0.0.0
DHCP Server Range End	0.0.0.0
IGMP	
IGMP Querier	<input type="checkbox"/>
IGMP Snooping	<input type="checkbox"/>

Network Properties

IP Mode

Disabled : この VLAN によってこの VLAN に割り当てられた IP はありません

Static : ユーザーが手動で設定した IP 設定 (VLAN ID #1 / Management VLAN のデフォルト)
この VLAN で DHCP または IGMP、あるいはその両方を有効にする場合は、Static IP アドレスを設定する必要があります。

Dynamic : DHCP サーバーから取得した IP 設定。

IP Address : このスイッチのユーザー構成のインターネットプロトコルアドレス (IPv4)。

Subnet Mask : VLAN に適用されるユーザー構成のサブネットマスク。

Gateway : 割り当てられたサブネット外のアドレスを要求するこの VLAN 上のネットワークトラフィックは、この IP アドレスを介してルーティングされます。

DHCP Properties

DHCP Server : Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) / 動的ホスト構成プロトコル
Disabled (Default)

Enabled : 特定の VLAN 上の 1 つのスイッチのみがアクティブな DHCP サービスを持つことができ、その VLAN 自体に Static IP が必要です。複数の VLAN を持つ 1 つのスイッチに複数の DHCP サーバーが存在する場合があります。

DHCP Server Range Start : DHCP プールに開始 IP アドレスを設定します。プールは、サーバーの IP アドレスよりも高いアドレスで開始する必要があります。

DHCP Server Range End : DHCP プールで最後に使用可能な IP アドレスを設定します。IP / サブネットマスクの範囲内の最後の有効な IP 値を超えることはできません。

IGMP Properties

Intergroup Management Protocol (IGMP) / グループ間管理プロトコルにより、マルチキャストグループに基づいたスイッチによるパケットのフィルタリングと転送が可能になります。

sACN を使用するネットワークは、ゲートウェイへのリンク上のトラフィックを、ゲートウェイがリッスンするように構成されている xDMX ユニバースだけに減らすことで、IGMP を最大限に活用できます。

IGMP Querier

Disabled (Default)

Enabled : マルチキャストグループアドレスへのエンドデバイスのサブスクリプションに基づいて、スイッチが転送テーブルを照会および構築できるようにします。
(エンドデバイスのユニバースを調べて、転送用のテーブルを作成)
クエリアは、IGMP ルーティングを使用する特定の VLAN でアクティブである必要があります。ただし、信頼性の理由から、2 つ以上にすることを推奨します。

IGMP Snooping

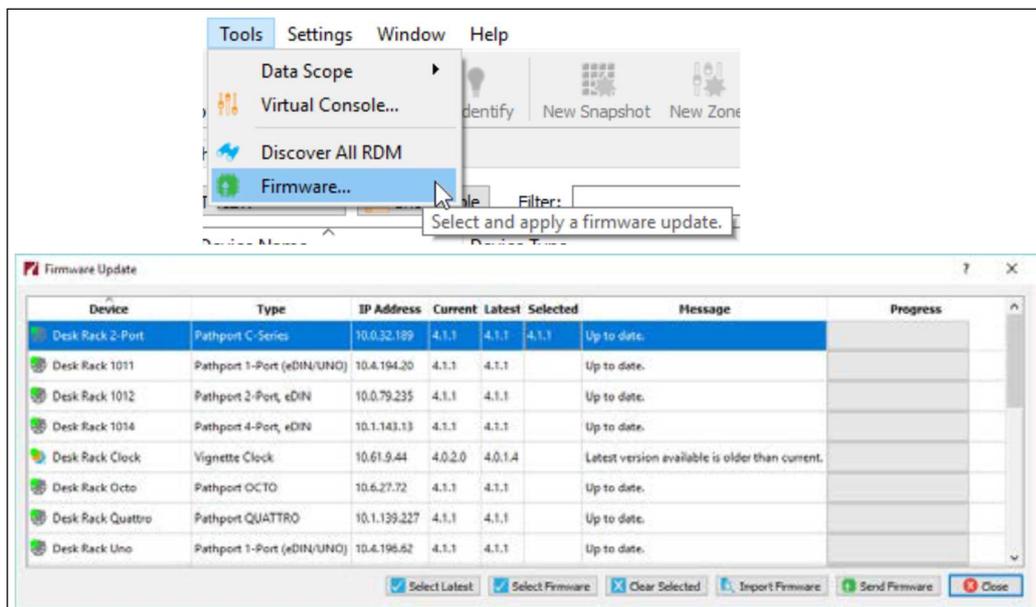
Disabled (Default)

Enabled : スイッチが、クエリアによって作成された IGMP 転送テーブルに従ってマルチキャストデータパケットを転送できるようにします。
IGMP クエリアとして機能するスイッチを含め、IGMP を使用する VLAN 上のすべてのスイッチでスヌーピングを有効にする必要があります。

■ 機器のファームウェアの更新

Pathscope は、ほぼすべての Pathway 製品のファームウェアを更新できます。最新のファームウェアファイルは、通常、ソフトウェアの最新リリースに含まれています。

Firmware Update ウィンドウを開くには、ツールメニューをクリックし、**Firmware...**メニューを選択します。



[Firmware Update]ウィンドウには、**Device**、**Type**、**IP Address**、**Current**(現在)、**Latest**(最新)、**Selected**、**Message**、**Progress**(進捗状況)などの列があります。

Device 列には、オンラインデバイスが一覧表示され、次の列にデバイスの種類と IP アドレスが表示されます。

Current、**Latest**、**Selected** 列は、その機器のファームウェアバージョンを示します。

Current : 機器の現在のファームウェアバージョンが表示
Latest : Pathscope で利用可能な最新バージョンが表示
Selected : 現在選択されているファームウェアファイルのバージョン番号が表示

メッセージ列には、現在のデバイスに関する情報が表示されます。

Up to Date : 最新
Newer version available : 利用可能な最新バージョン
Latest version available is older than current : 利用可能な最新バージョンは現在より古い
No firmware available : 利用可能なファームウェアがありません

アップグレード中は、”Firmware Update in Progress (ファームウェアの更新中)”と”Transferring to <Device Name> (<デバイス名>に転送中)”と表示され、”<Device Name> is restarting (<デバイス名>を再起動しています)”などの状況の更新が表示されます。

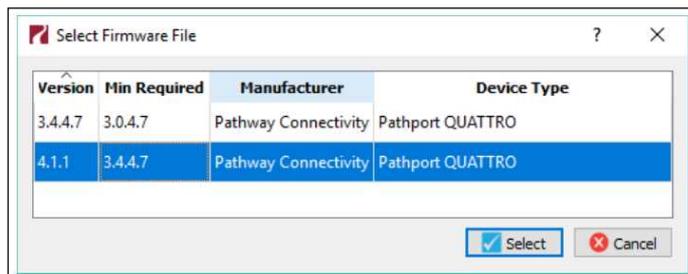
ファームウェアのアップグレードの進行中は、Progress 列に緑色の進行状況バーが表示されます。アクティビティがない場合は灰色になります。

◇ 機器のアップデート

利用可能な最新のファームウェアバージョンでアップグレードするデバイスをクリックして選択し、[Select Latest]ボタンをクリックします。新しいバージョン番号が Selected 列に入力されます。

Device	Type	IP Address	Current	Latest	Selected	Message
Desk Rack Quattro	Pathport QUATTRO	10.1.139.227		4.1.1	4.1.1	Newer version available.

[Select Firmware]ボタンをクリックして、ロードするファームウェアバージョンを手動で選択することもできます。Select Firmware File ダイアログが表示されます。



Select Firmware File ダイアログ自体には、Version、Min Require、Manufacture、Device Type などのいくつかの列があります。

Version : 利用可能なすべてのファームウェアファイルのファームウェアバージョンを表示
Min Require : そのバージョンにアップグレードするために機器に必要な一番古いファームウェアバージョンを表示
Manufacture : Pathway
Device Type : 現在選択している機器

新しいファームウェアファイルが選択されると、そのバージョン番号が Selected 列に表示されます。ファームウェアの更新を続行するには、[Send Firmware]ボタンをクリックします。

Device	Type	IP Address	Current	Latest	Selected	Message	Progress
Desk Rack Quattro	Pathport QUATTRO	10.1.139.227		4.1.1	4.1.1	Transferring to Desk Rack Quattro...	<div style="width: 91%; background-color: green;"></div> 91%

Progress 列の緑色の進行状況バーが動き始め、Message 列のフィールドに”Firmware Update in Progress (ファームウェアの更新が進行中)”と”Transferring to <Device Name> (<デバイス名>に転送中)”と表示され、ファームウェアの転送が完了すると”<Device Name> is restarting (<デバイス名>が再起動しています)”と表示されます。

※ 警告 ※

複数の機器のファームウェアを一度に更新するときは注意してください。VIA スイッチと接続されている PoE デバイスを同時に更新しないでください。ファームウェア更新プロセスでは、PoE デバイスのメモリへの書き込みを完了する前にスイッチを再起動することがあります。VIA スイッチが再起動すると、接続されている PoE デバイスの電源が切断され、転送が遮断されて動作不能になる可能性があります。

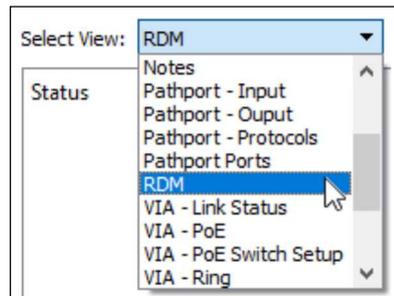
操作をキャンセルするか別のファイルを選択する場合は、ウィンドウ内の行をクリックしてデバイスを選択し、[Clear Selected]ボタンをクリックします。

■ RDM Device

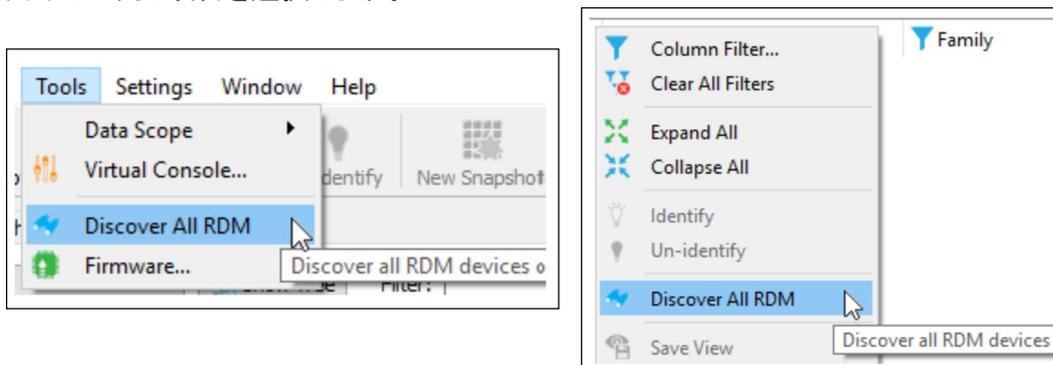
Pathscope は、RDM 機器を識別し、モードやスタート・アドレスなどのプロパティを設定できる強力な RDM コントローラーです。

RDM 機器の整理された簡単なビューを取得するには、**Select View** ドロップダウンメニューから **RDM View** を選択します。これにより、理想的な方法でデバイスビューの列が設定されます。

もちろん、このビューを開始点として使用し、そこから独自のカスタムビューを作成することもできます。



RDM Discover コマンドを送信していないため、このビューの Device ウィンドウは空白になっているはずですが。これを行うには、Tools メニューをクリックして **Discover All RDM** メニュー項目を選択するか、デバイスビューで右クリックして同じ項目を選択します。



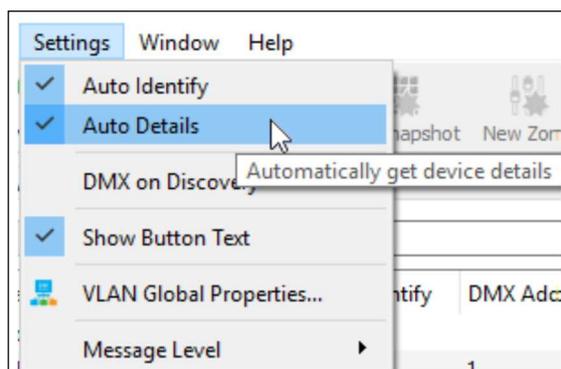
Device ウィンドウに、すべてのデバイスポートで検出されたすべての RDM 機器が表示されます。

メッセージレベルが Verbose 以上に設定されている場合、メッセージビューアーに、オンラインになる機器に関するいくつかのメッセージが表示されます。

RDM 機器が最初に検出されたときには、いくつかの基本的なプロパティのみが取得されます。

検出された RDM デバイスから詳細情報を表示するには、**Auto Identify** と **Auto Details** を有効にします。

Settings メニューでこれらを有効にしてください。



Auto Identify : クリックすると、選択された RDM 機器に[Identify(識別)]コマンドを自動的に送信。別のものをクリックすると、最初のは ID 自体を停止し、新しくクリックしたデバイスに送信します。

これにより、ネットワークの設定時にクリックしている機器を簡単に参照できます。

[Identify]チェックボックスをクリックしてトランザクションを送信する追加の手順は必要ありません。

Auto Details : RDM GET ALL コマンドを自動的に送信して、Model、Manufacturer、RDM UID、DMX Personality、Start Address などのデバイスプロパティを取得します。これにより、すべての機器の **Device Details** または **Get All** ボタンを手動でクリックする必要がなくなります。

機器をクリックすると、そのプロパティが Properties ペインに読み込まれ、他の機器と同じように確認または編集できます。

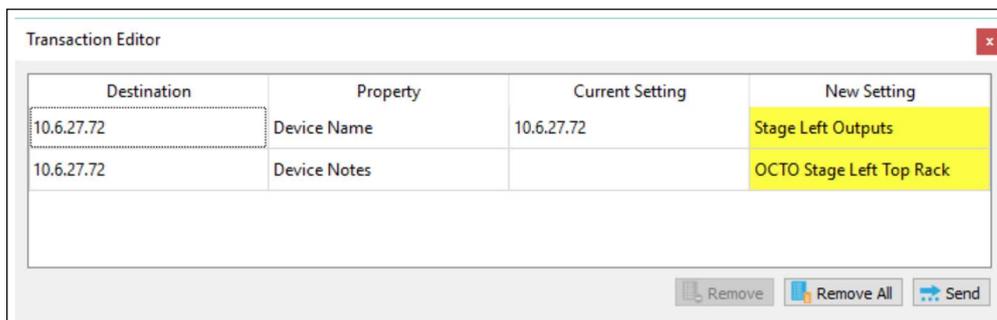
Auto Details を有効にせず、**Get All** コマンドを使用しない場合、Pathscope はどの値を入力すれば良いかわからないため、プロパティがすべて表示されず、ほとんどのフィールドがグレー表示されて編集できなくなります。

The screenshot shows a properties panel for an RDM Hub, divided into four sections:

- Basic Properties**: Firmware Version 1.7.5.0, Device Type RDM Hub.
- Comms**: Identify
- Device**: Model Description RDM Hub, Manufacturer Pathway Connectivity Inc., Name Rack RDM Hub (text input), RDM UID 5043:36fd.
- DMX Properties**: DMX Personality RDM Hub (0 slots) (dropdown menu).

Transaction Editor

プロパティに変更が加えられると、Transaction が作成され、Transaction Editor のキューに入れられます。



トランザクションが送信されるまで、プロパティテーブルの新しいプロパティは黄色で強調表示されたままになります。キュー内の選択したアイテムを削除するか、キュー全体をフラッシュできます。

トランザクションエディターには 4 つの列があります。

- ・ **Destination** (宛先) … 変更が送信されるデバイスとサブデバイス
- ・ **Description** (説明) … 変更されるプロパティの名前または説明
- ・ **Current Setting** (現在の設定) … プロパティの現在の値
- ・ **New Setting** (新しい設定) … プロパティの新しい値

表の下に 3 つのボタンがあります。[Send]ボタンは、キューに入れられたトランザクションのリスト全体をそれぞれの宛先に送信します。

トランザクションエディターは複数選択テーブルです。次の方法で行を選択できます。

- ・ その行をクリックして 1 つの行を選択します。
- ・ Ctrl キー (Windows) または Command キー (Mac) を押しながら目的の行をクリックして、複数の連続する行または連続しない行を選択します。
- ・ 連続する複数の行を選択するには、まず 1 つの行をクリックして選択し、Shift キーを押しながら、選択する範囲内の最後の行をクリックします。

行の選択を解除するには、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Mac) を押しながらクリックします。

目的の行を選択 (強調表示) したら、[Remove] ボタンをクリックしてトランザクションを削除できます。

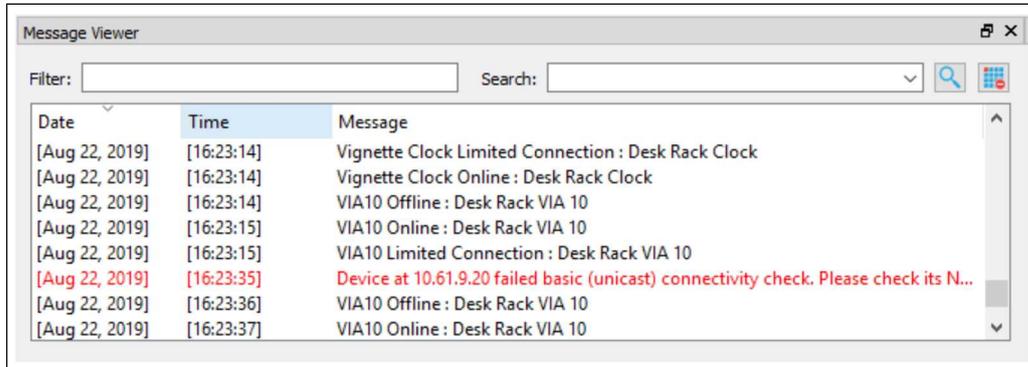
すべてのトランザクションを削除するには、[Remove All] ボタンをクリックします。

この場合、行を手動で選択する必要はありません。

■ Message Viewer

Message Viewer には、トランザクションモニタでコミットされたトランザクションの確認、ネットワーク上のデバイスの検出と損失、およびエラーメッセージが表示されます。

Message Viewer の動作は、Message Level メニュー項目によって制御されます。メッセージが表示されない場合は、メッセージレベルが Minimum に設定されている可能性があります。この設定はエラーのみを表示します。詳細を確認するには、メッセージレベルを Verbose に変更してみてください。



Message Viewer ウィンドウは、2つのテキストフィールド、2つのボタン、およびメッセージテーブル自体で構成されています。メッセージテーブルには、日付、時刻、メッセージの3つの列があります。エラーおよび警告メッセージは赤で表示されます。

Device ウィンドウと同様に、メッセージ内のフレーズをフィルタリングまたは検索できます。これらの機能は、Device ウィンドウの機能と同じです。

メッセージのフィルタリング

メッセージをフィルタリングして、フレーズに一致するメッセージのみを表示するには、Filter フィールドにテキストを入力します。Pathscope は、入力されたテキストに一致するメッセージのみを表示します。フィルターをクリアするには、テキストフィールド内の[X]をクリックします。

メッセージの検索

テキストボックスに検索するテキストを入力し、[Q]ボタンをクリックします。次に、Pathscope は検索語に一致する最初のメッセージを強調表示します。[Q]ボタンをもう一度押して[Find Next]し、一致する次のメッセージを強調表示します。

メッセージの削除

[Message Viewer]からすべてのメッセージを消去するには、 ボタンをクリックします。

■ Main Menu

◇ File Menu

Load Show

これにより、オペレーティングシステムの標準の Open File ダイアログが表示され、保存済みのショーファイルを選択してショーの設定済みプロパティを読み込むことができます。

Load Recent

フライアウトメニューを表示し、最近開いた 10 個のショーファイルを一覧表示します。

Save Show

現在ロードされている Show File がない場合は、オペレーティングシステムの標準の Save File ダイアログが表示され、現在の設定済みプロパティを保存できます。

Show File がロードされると、Show File は現在の設定済みプロパティで上書きされます。

Save Show As

これにより、オペレーティングシステムの標準の Save File ダイアログが表示され、現在の設定済みプロパティを新しいファイルに保存して、後でリロードすることができます。

Exit

Pathscape を終了します。

◇ Security Menu

Log In

(まだドメインにログインしていない場合)

Security Domain User Login ウィンドウを開きます。

このウィンドウから、以前に作成したセキュリティドメインを選択し、そのパスワードを入力してそのドメインにログインします。



Log Out

(現在ドメインにログインしている場合)

これにより、現在のセキュリティドメインからログアウトします。

New Domain

New Security Domain ウィンドウを開きます。

新しいセキュリティドメインに名前を付け、
管理者とユーザーのパスワードをここで設定します。



Recovery Domain

ドメインへのパスワードが失われた場合に、セキュリティ
デバイスへのアクセスを回復するために、保存されている
Recovery Key を入力できる **Reset Device Security**
ウィンドウを開きます。



Administration

Security Domain Admin Login ウィンドウを開きます。その後、Adding Devices、Changing the Passwords、
これらの機器への Factory Defaulting など、ドメインに変更を加えることができます。



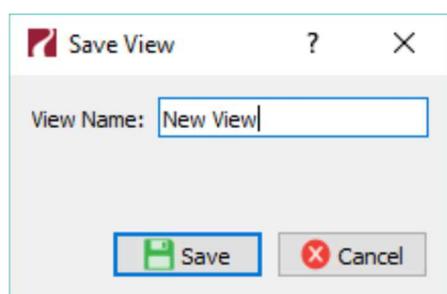
◇ View Menu

Select View

フライアウトメニューを表示し、Device View Presets のリストを表示します。ユーザーが保存したプリセットが最初にリストされ、次にPathscopeのデフォルトビュー、次に含まれている既定のビューが表示されます。

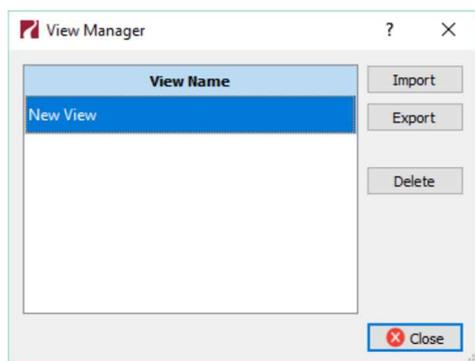
Save View

これにより、現在の Device ウィンドウの列設定を新しいビュープリセットとして保存するためのダイアログが表示されます。



View Manager

View Manager が表示されます。このウィンドウから、ユーザーが作成したビュープリセットをインポート、エクスポート、または削除できます。



Property Columns

これにより、Property Columns ウィンドウが表示され、Device ウィンドウに表示される Device Property Columns を構成するために使用されます。

これらのカスタムビューは、**Save View** メニュー項目で保存できます

Resize All Columns

これにより、Device ビューに表示されているすべての列のサイズが、コンテンツに合わせて変更されます。列の内容が完全に表示されていない場合は、その列が拡大されて収まります。列の内容の後に余分な空白がある場合、列は収まるように縮小されます。

Expand All

これにより、機器のツリービューが展開され、読み込まれているすべてのデバイスとそのサブデバイスが表示されます。テーブルビューでは適用されません。

Collapse All

これにより、機器のツリービューが折りたたまれ、すべてのサブデバイスが非表示になり、親デバイスのみが表示されます。テーブルビューでは適用されません。

◇ Device Menu

Identify

これにより、現在選択されている機器は、その LCD パネルのバックライトまたは識別 LED を点滅させることで ID 自体を識別し、接続されている他の機器の識別を容易にします。

Un-Identify

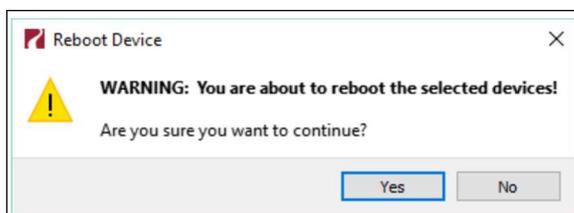
これにより、選択した機器の識別バックライトまたは LED の点滅が停止します。

Refresh

これにより、現在選択されている機器のすべてのプロパティ値が更新されます。

Reboot

選択したオンラインデバイスに再起動コマンドが送信され、電源が再投入されます。警告ダイアログが表示されます。Yes を選択して続行するか、No を選択して再起動をキャンセルします。



Factory Defaults

これにより、選択した機器が工場出荷時の初期設定にリセットされます。工場出荷時のデフォルトプロセスをキャンセルできる警告ダイアログが表示されます。[Yes]を選択して続行するか、[No]を選択してリセットをキャンセルします。



RDM Discovery

Pathport ゲートウェイサブデバイス/ポートをクリックして選択し、このメニュー項目をクリックして、そのポートで RDM Discover 信号を送信します。

検出された RDM 機器はすべて、そのポートのサブデバイス/子機として読み込まれます。

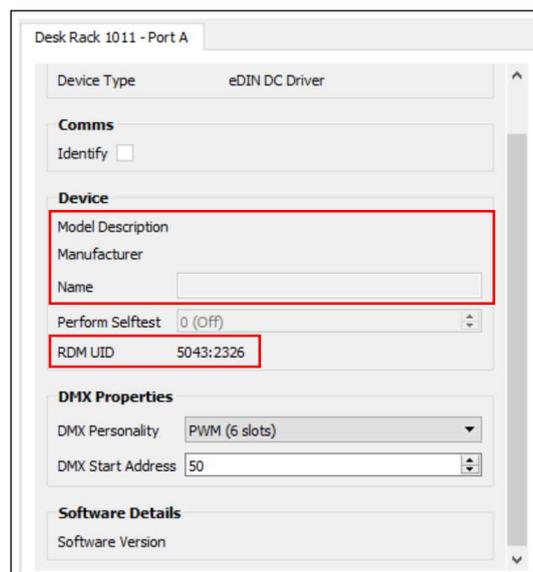
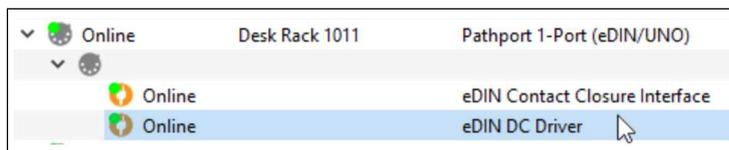


Device Details

RDM デバイスが検出されると、Pathscope は必要な DEVICE_INFO パラメータと SUPPORTED_PARAMETERS パラメータの GET リクエストを自動的に送信します。これにより、各デバイスの基本情報が検出直後に利用可能になります。

ただし、メーカーのラベルを含むいくつかの詳細はまだ読んでいないため、空白になります。

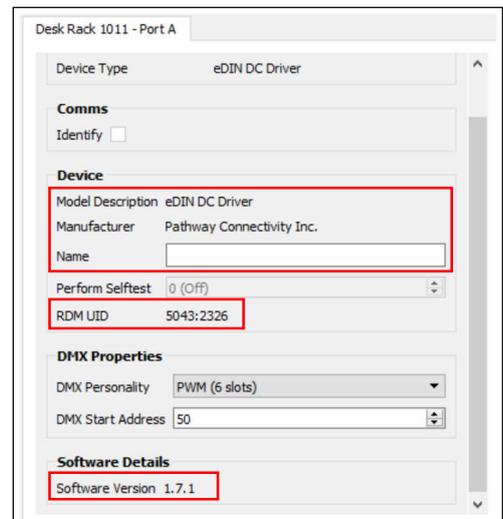
デバイスビューには、UID のみが表示されます。



Device Properties ウィンドウでより意味のある説明を取得するには、Device Details メニュー項目をクリックして、Manufacturer(製造元)およびその他のフィールドに入力します。これにより、選択したポートにいくつかの GET RDM コマンドが送信されます。

- ・ 必要なデバイス情報 (DEVICE_INFO)
- ・ サポートされるパラメータ (SUPPORTED_PARAMETERS)
- ・ パラメータの説明 (PARAMETER_DESCRIPTION)
- ・ ソフトウェアバージョンラベル (SOFTWARE_VERSION_LABEL)
- ・ デバイスモデルの説明 (DEVICE_MODEL_DESCRIPTION)
- ・ メーカーのラベル (MANUFACTURER_LABEL)
- ・ 製品詳細 ID リスト (PRODUCT_DETAIL_ID_LIST)
- ・ デバイ斯拉ベル (DEVICE_LABEL)

Pathscope は、これらの GET リクエストをポート上の選択されたデバイスに送信し、返された情報を Device Properties ウィンドウに入力します。RDM GET クエストで発生したエラーは、メッセージログに赤いテキストで報告されます。



DMX Information

これにより、選択した機器に複数の DMX GET コマンドが送信されます。

最初に DMX スタートアドレス (DMX_START_ADDRESS) の ThiGET を送信します。

次に、各パーソナリティの説明を求める GET コマンドを送信します。

それぞれのパーソナリティの数は、デバイス情報の検出および最初の GET 時に取得されます。

機器の現在の DMX パーソナリティに対する GET リクエストが送信され、最後に、機器の識別設定に対して GET リクエストが行われます。

情報は、Device Properties ウィンドウの DMX タブに表示され、ユーザーは DMX セットアップを構成できません。

GET All

これにより、選択した機器から使用可能なすべての RDM プロパティを取得するリクエストが送信されます。

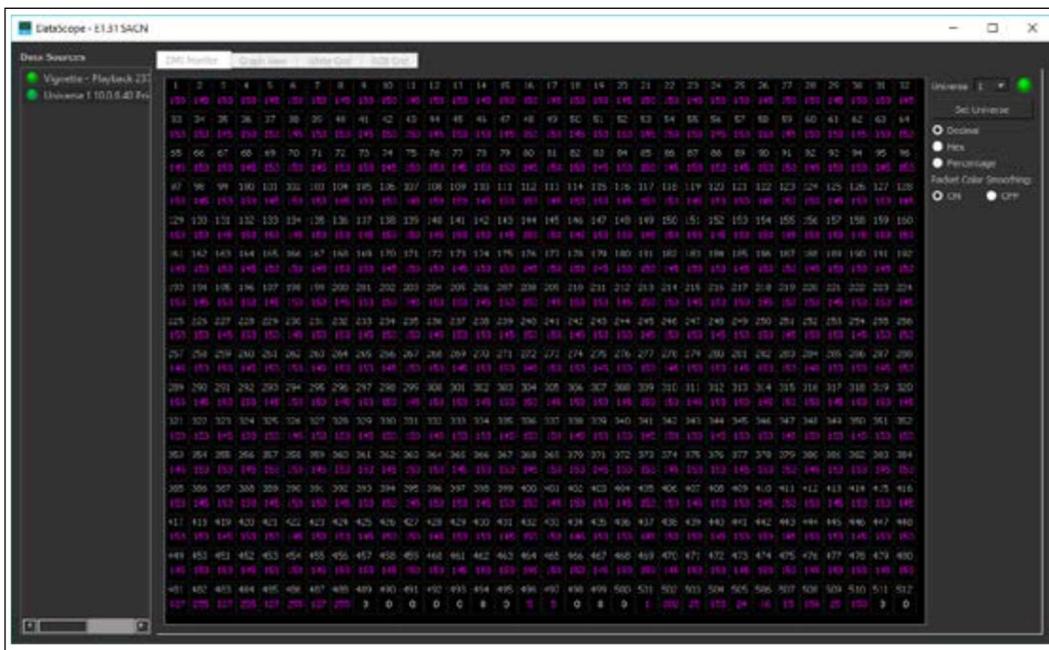
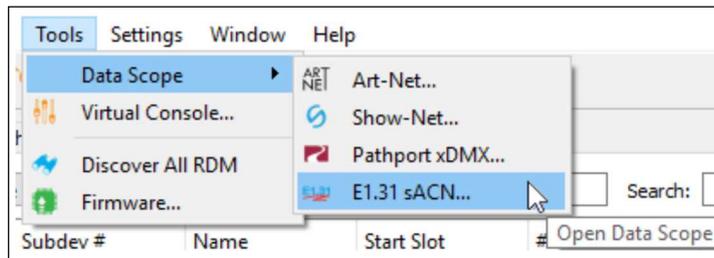
このコマンドで取得されるプロパティの数とタイプは、デバイスによって異なります。

機器に多数のプロパティがある場合、GET ALL コマンドには数秒かかることがあります。

◇ Tools Menu

DATA Scope

これにより、いくつかのネットワーク DMX プロトコルから選択できるフライアウトメニューが開きます。次のいずれかをクリックすると、そのプロトコル (Art-Net、Show-Net、Pathport Protocol、および E1.31 sACN) のデータスコープウィンドウが開きます。



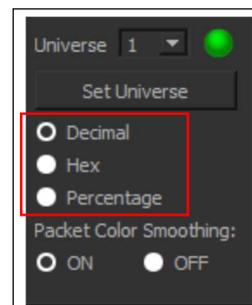
Data Scope ウィンドウでは、DMX データの視覚的な解釈が可能で、トラブルシューティングやネットワーク機能のテストに使用できます。ネットワークで DMX レベルを表示するには、DMX Monitor、Graph View、White Grid、RGB Grid の 4 つの方法があります。データスコープは、各プロトコルで同一に見えます。

ウィンドウの左側の DMX Sources ペインには、xDMX データのソースが表示されます。ユニバース、DMX ソースの IP アドレス、優先度が表示されます。ソースが Vignette システムからのものである場合、ユニバース番号の代わりに Vignette と再生番号が表示されます。

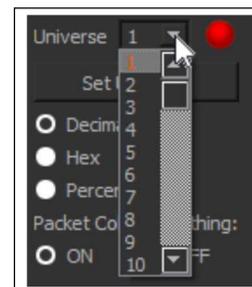


DMX Monitor

先程の DATA Scope 画面は DMX モニタービューになります。
このビューでは、各 DMX チャンネルとその値がグリッドに表示されます。
表示された値は、右側のラジオボタンを使用して、Decimal/10 進数 (0~255)、Hex/16 進数、Percentage/パーセント(0~FL)として表示できます。



目的のユニバースを表示するには、左側のパネルで DMX ソースを選択してから、右側のパネルのドロップダウンメニューを使用します。
フィールドに
直接入力するか、下矢印をクリックしてリストからユニバースを選択します。



目的のユニバースを選択した後、[Set Universe]ボタンをクリックすると、そのユニバースの値が表示されます。

各チャンネルのデータ値は、レベルが変化している方向に応じて色が変わる場合があります。

チャンネルが立ち上がる : チャンネルのデータ値はシアンで表示
値の増加が止まる : 色はマゼンタに変わり、新しいパケットを受信するたびに点滅
チャンネルレベルがダウン : データ値が緑色で表示
チャンネルレベルが 0 に達する : 点滅せずに白で表示

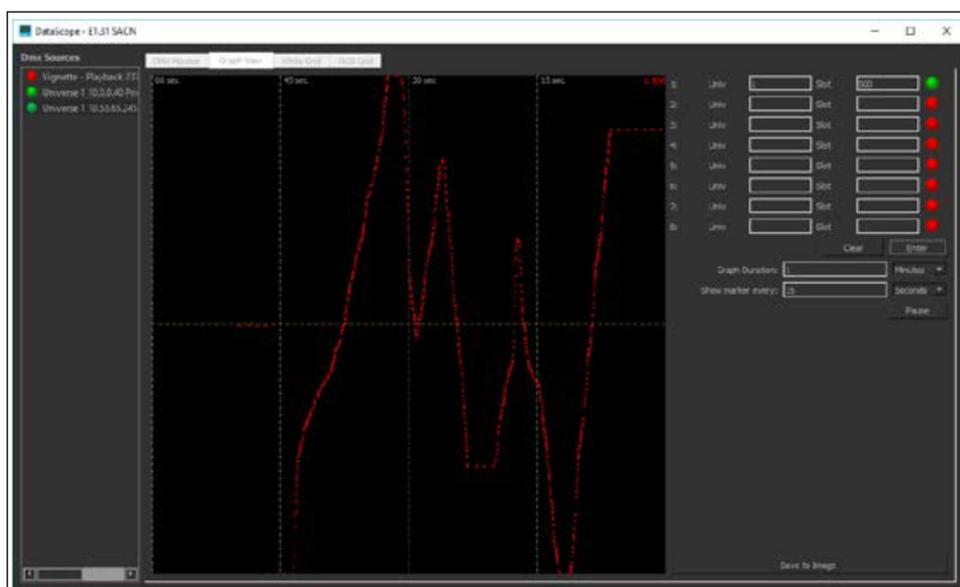
Packet Color Smoothing の下のラジオボタンは、チャンネルのレベルが変化している間、重複パケットを無視するかどうかを制御します。

フェードが非常に遅い場合、レベルが上昇または下降している場合でも、同じレベルで複数のパケットを連続して取得することができます。

Packet Color Smoothing を OFF に設定すると、チャンネルレベルが変更されていないパケットはマゼンタで表示され、レベルが増加または減少するとすぐに変化します。これにより、フェード中に表示値の不要なカラーフリッカーが発生する可能性があります。パケットカラースムージングを ON にして、レベルが変わるまで重複パケットを無視します。デフォルトはオンです。

Graph View

グラフビューは、一定期間のチャンネルレベルを表示する方法を提供します。チャンネルレベルは、下部の 0 から上部の 255 まで垂直に表示されます。データは右から左に読み取られます。最新のデータ値はグラフの右端に表示され、時間の経過とともに左に移動します。



グラフビューで一度に監視する最大 8 つのチャンネルを入力できます。

監視するチャンネルのユニバースとチャンネル番号を入力したら、[Enter]ボタンをクリックします。

追加のチャンネルは、それらを区別するのに役立つようにグラフ上で異なる色で表示されます。

すべてのチャンネルをクリアして空白状態にするには、[Clear]ボタンをクリックします。

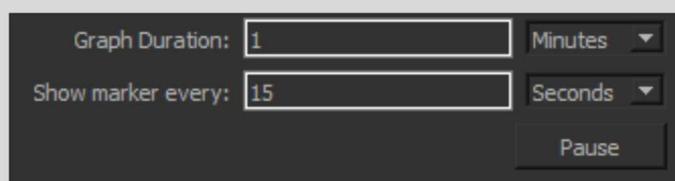
[Enter]ボタンと[Clear]ボタンの下に、グラフに表示されるタイミングマーカと垂直マーカを編集するセクションがあります。

Graph Duration フィールド

: 水平時間スケール、またはデータポイントが画面上にある時間を決定します。

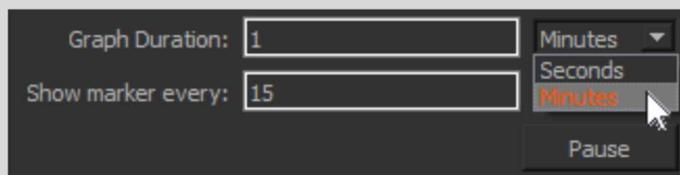
デフォルトでは、1 分に設定されています。

期間を編集するには、ドロップダウンメニューをクリックして分または秒を選択し、新しい値(整数、最小 1 分または秒)を入力します。



Show Marker Every

- : 垂直マーカ線線の分布を決定します。
デフォルトでは、これは 15 秒に設定されています。
デフォルトのグラフ継続時間は 1 分です。これにより、グラフビューが 4 つのセクションに分割されます。ドロップダウンメニューをクリックしてマーカの間隔を編集し、分または秒を選択して、新しい値(整数、最小 1 分または秒)を入力します。

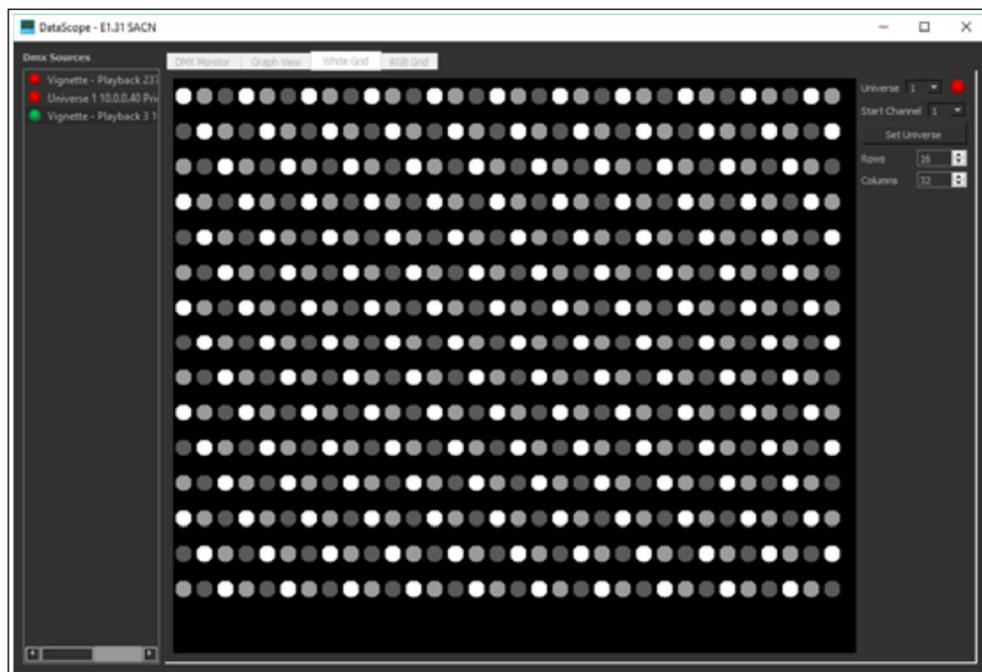


Pause

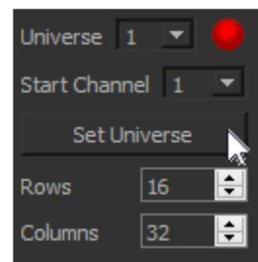
- : ボタンをクリックすると、グラフの更新と新しいデータの表示を停止します。
これは、トラブルシューティングやテストシナリオに役立ちます。
ウィンドウの下部にある **Save to Image** ボタンをクリックすると、標準の Save ダイアログが開き、グラフのスクリーンキャプチャを簡単に保存できます。



White Grid



このビューは、円形の白色光として表されるチャンネルのグリッドを表示します。各チャンネルの DMX 値は、各円の明るさを決定します。左側のパネルで、DMX ソースを選択します。右側のパネルで、Universe フィールドに入力するか、ドロップダウンメニューを使用してリストからユニバースを選択することにより、表示するユニバースを選択します。

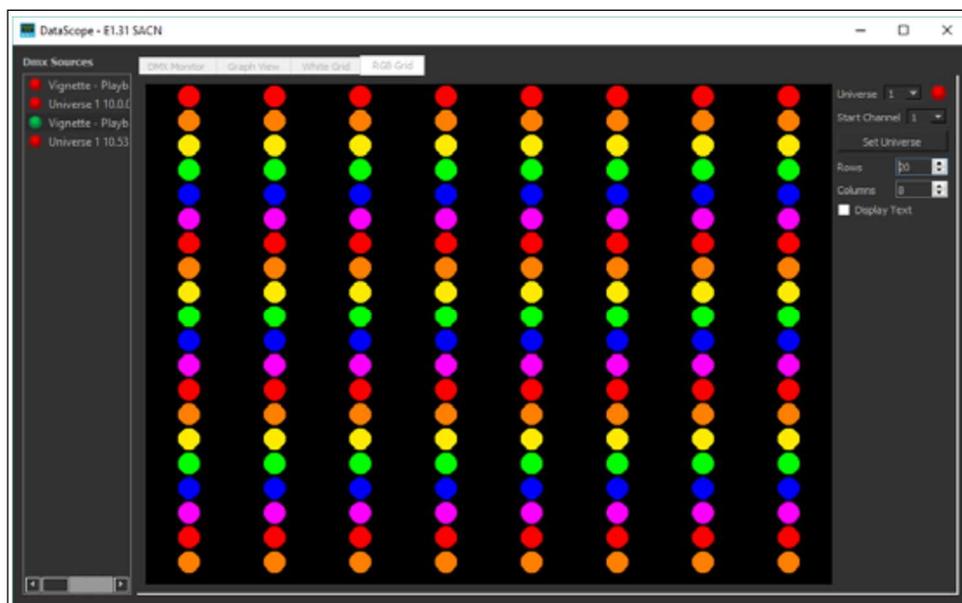


必要に応じて、開始チャンネルを指定できます。デフォルトは 1 です。開始チャンネルを編集するには、フィールドに新しい値を入力するか、ドロップダウンを使用して新しい値を選択します。

Rows/行および **Columns**/列フィールドを編集して、ライトのグリッドレイアウトをカスタマイズすることもできます。デフォルト値はそれぞれ 16 と 32 です。これらの値を調整して、特定のシナリオに適した方法でライトグリッドを表示します。

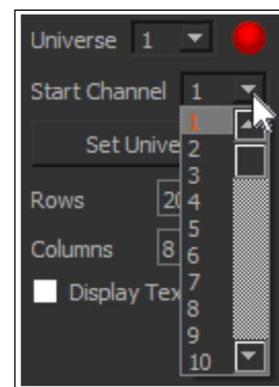
RGB Grid

RGB グリッドビューは、前のホワイトグリッドビューと同様に、3つの DMX チャンネルすべてを1つの仮想 RGB フィクスチャに結合します。



このビューでは、仮想フィクスチャ1のチャンネル1が赤、チャンネル2が緑、チャンネル3が青であると想定しています。チャンネル4、5、6は仮想フィクスチャ2の赤、緑、青です。3つのチャンネルのそれぞれの値は、色付きの円の色と強度を決定します。

データスコープの他のすべてのビューと同様に、左側のパネルでDMXソースを選択し、右側のパネルで目的のユニバースとスタートチャンネルを選択してから、[Set Universe]ボタンをクリックします。

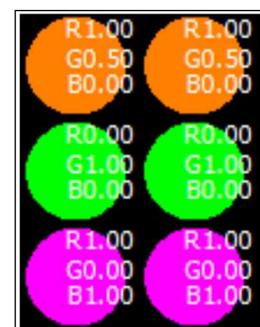


White Gridビューと同様に、行と列のフィールドをシナリオで機能する値に編集することで、グリッドのレイアウトをカスタマイズできます。デフォルト値はそれぞれ13と14です。

Display Text チェックボックスをクリックして、各仮想フィクスチャの個々の赤、緑、青の値を表示します。

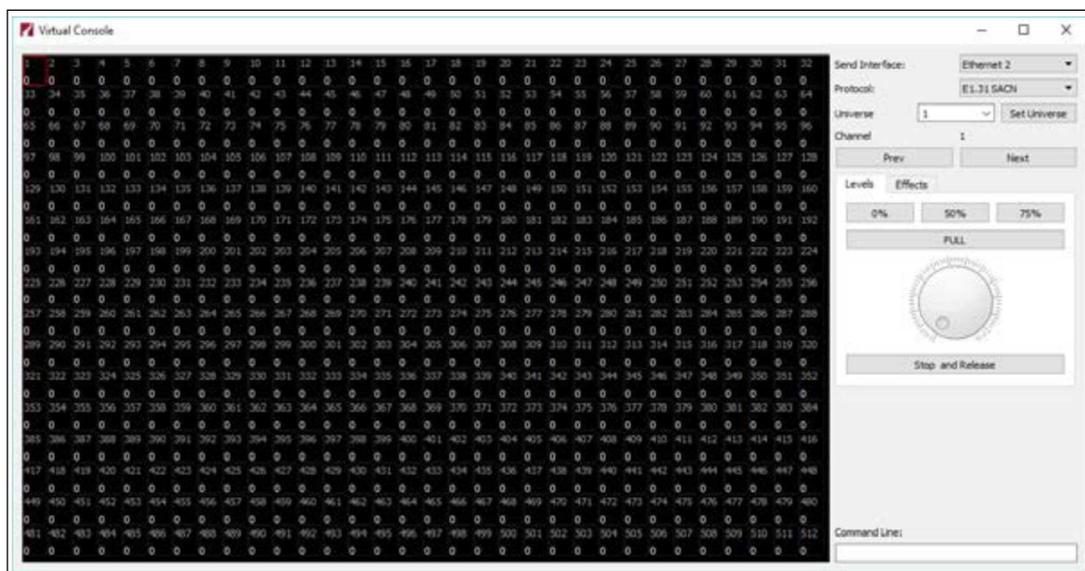
「RX.XX GX.XX BX.XX」として表示されます。

X.XX は、0.00(0%)から1.00(100%)までの数値です。

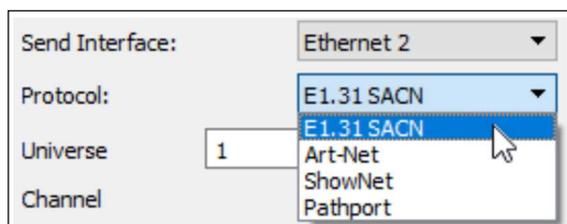


Virtual Console

これにより、仮想 xDMX コンソールウィンドウが開き、複数のプロトコルで任意のユニバースに出力できます。これはテスト目的で使用することを目的としています。



開始するには、右側のパネルのドロップダウンを使用して、適切な **Send Interface** (ネットワークインターフェイスコントローラー)、**Protocol**、**Universe** を選択します。



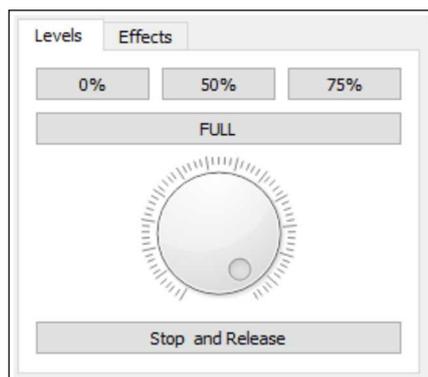
これで、チャンネルを選択し、右側のパネルの[Protocol]ボタンと[Universe]ボタンを使用して、チャンネルを操作できます。

マウスを使用してチャンネルをクリックして選択します。現在選択されているチャンネルの輪郭が赤で表示され、マウスカーソルの下のチャンネルの輪郭がシアンで表示されます。[Prev/前へ]ボタンと[Next/次へ]ボタンを使用して、一度に1つのチャンネルをどちらかの方向に移動することもできます。



チャンネルを操作するために、[Prev]ボタンと[Next]ボタンの下には、**Level** と **Effects** の 2 つのタブがあります。

Levels : Level Panel を使用して、選択したチャンネルの固定レベルを設定します。

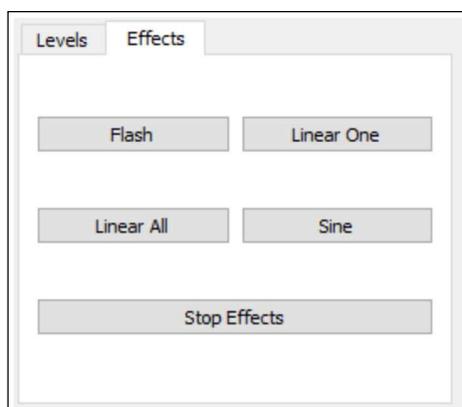


0%、50%、75%、FULL (100%) … プリセットレベルのボタン

ジョグホイール : 周りをマウスカーソルでクリックアンドドラッグして、レベルを調整

Stop and Release : 選択したユニバースのすべてのチャンネルが 0 に設定され、ネットワークへの DMX の送信が停止します。

Effects : エフェクトパネルには 4 つのプリセットエフェクトがあり、ネットワークのテストやトラブルシューティングの目的で役立ちます。それらは、Flash、Linear One、Linear All、Sine です。



Flash … 選択されたチャンネルのレベルを 1Hz の方形波で 0 と FULL (255) の間で循環

Linear One … 選択したチャンネルのレベルを 0 から FULL (255) までフェードさせ、一定の割合で再び 0 に戻します。0 から FULL へのフェードは約 8 秒

Linear All … Linear One エフェクトと同じだが、選択したユニバースの 512 チャンネルすべてに適用

Sine … 選択したチャンネルのレベルを 0~FULL (255) の範囲で、0.5 Hz の正弦波レートで循環

Stop Effect … 現在実行中のエフェクトの一部またはすべてを停止

Command Line : 右側のパネル下部のコマンドラインで DMX レベルを設定
隣接しない範囲であっても、複数のチャンネルレベルを設定可能

(順番に) **Channel specification**/チャンネルの仕様、**Channel value**/チャンネルの値、**termination**/ターミネータで構成

Channel specification

- ・ 単一のチャンネル番号 (例:[1]、[512])
- ・ スラッシュ[/]を[スルー]としてチャンネル番号の範囲を設定 <例:[1/5]→1~5>
- ・ [+]でチャンネルを追加設定 <例:[1 + 3 + 5]→1 & 3 & 5>
- ・ 上記の 2 つの組み合わせ <例:[1/5 + 30 + 40/50]→1~5 & 30 & 40~50>

Channel value

- ・ [*](アスタリスク)文字と、それに続く 0~255 の DMX 値を指定する 10 進数。
<例:[* 127]→127(50%)>

ターミネータ

- ・ キャリッジリターン文字 (Enter キーまたは Return キー)

コマンド例:

- ・ [1 * 255 <enter>] … チャンネル 1 を 255(フル)に設定
- ・ [1/5 * 127 <enter>] … チャンネル 1~5 を 127(50%)に設定
- ・ [1 + 3 + 5 * 255 <enter>] … チャンネル 1、3、5 を 255(フル)に設定
- ・ [1/5 + 30 + 40/50 * 127 <enter>]
… チャンネル 1~5、チャンネル 30、およびチャンネル 40~50~127(50%)を設定

Discover All RDM



このメニュー項目をクリックして、すべてのゲートウェイポートで RDM Discover 信号を送信します。
検出された RDM 機器はすべて、該当するポートのサブデバイスとして読み込まれます。

Firmware



これにより、**Firmware Update** ウィンドウが開きます。
(詳細な手順については、**Updating Device Firmware** セクションを参照)

◇ Setting Menu

Auto Identify

このチェックメニュー項目は、選択したデバイスの ID モードへの自動設定を有効または無効を設定します。有効にすると、選択した機器の LED または LCD バックライトを識別するために点滅させます。別の機器を選択すると、前のデバイスは自体の識別を停止し、新しく選択した機器は自体の識別を開始。

Auto Details

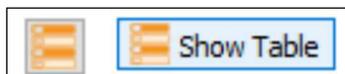
このチェック可能なメニュー項目は、デバイスビューで選択されている RDM GETdevice details コマンドの RDM デバイスへの自動送信を有効または無効にします。

DMX on Discovery

このメニュー項目をオンにすると、RDM Discovery プロセス中に Get DMX Information コマンドの自動送信が有効になります。

Show Button Text

このメニュー項目をチェックして、すべての UI ボタンの説明テキストを表示または非表示にします。



VLAN Global Properties

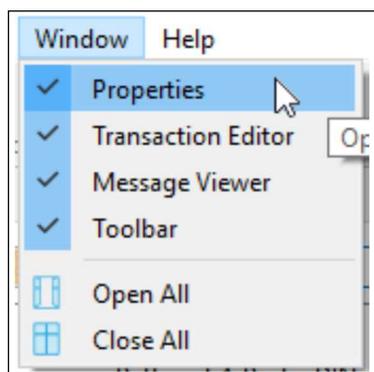
VLAN Global Properties ウィンドウが開きます。(VLAN の構成については、VLAN Config を参照)

Message Level

このメニュー項目は、メッセージビューアでメッセージの詳細レベルを変更するためのいくつかのオプション (Minimum、Verbose、Maximum) を含むフライアウトメニューを開きます。

- Minimum** : 警告メッセージとエラーメッセージのみを表示。(これがデフォルトの設定)
Verbose (Midium) が表示するメッセージが多すぎると感じる場合は、この設定を使用
- Verbose (Midium)** : 警告、エラー、および情報メッセージ (デバイスのオンとオフラインなど) を表示
- Maximum** : 警告、エラー、情報、システムメッセージ、および将来追加される可能性のあるメッセージタイプを表示。(主にデバッグまたはテクニカルサポートの目的で設計されている)

◇ Window Menu



Properties

このチェックボックス項目は、メインウィンドウのプロパティパネルを表示または非表示にします。

Transaction Editor

このチェックボックス項目は、メインウィンドウのトランザクションエディターを表示または非表示にします。

Message Viewer

このチェックボックス項目は、メインウィンドウのメッセージビューアを表示または非表示にします。

Toolbar

このチェックボックス項目は、メインウィンドウのツールバーを表示または非表示にします。

Open All

このメニュー項目は、3 つ以上のドッキング可能なウィンドウ (Properties Panel、Message Viewer、Transaction Editor) のいずれかまたはすべてが非表示の場合に表示されます。

Close All

このメニュー項目は、3 つ以上のドッキング可能なウィンドウ (Properties Panel、Message Viewer、Transaction Editor) のいずれかまたはすべてが開いている場合に非表示にします。

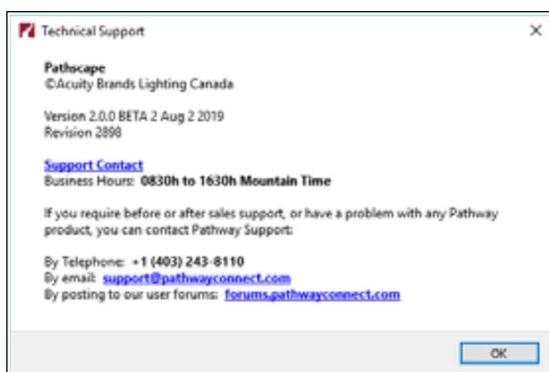
◇ Help Menu

Menu

このメニュー項目は、このマニュアルの PDF バージョンを開きます。

Technical Help

これにより、Pathscope のバージョン情報とテクニカルサポートの連絡先情報を含むウィンドウが開きます。



www.pathwayconnect.com

このメニュー項目は、デフォルトの Web ブラウザーを開き、Pathway Connectivity Web サイトに接続します。

About Pathscope

このメニュー項目は、バージョン番号、日付、その他の該当する情報を含む、Pathscope についての情報を開きます。

